

特51-135



1200800230619

特51

135

足助図幅地質説明書

国立国会図書館



始



6
20

Zone 9 Col. X.

Asuke.

足助圖幅地質說明書

(行印社分紙製町兜京東)

足助圖幅地質說明書目次

第一章 地形論



區域	地勢	地質論	地質類別及諸岩相互ノ關係	水成岩	片麻岩層	領家雲母片岩及片麻岩層	結晶片岩層	秩父古生層	三倉層	第三紀層	設樂區域
----	----	-----	--------------	-----	------	-------------	-------	-------	-----	------	------

自一丁至六丁
 自六丁至四十一丁



六丁
 十丁
 十丁
 十一丁
 十三丁
 十四丁
 十五丁
 十六丁
 十七丁

全七十五	七十九	六十九	全六十七	六十五	六十三	四十九	丁數
七	三	二	六	七	六	第八圖	行數
全	表四段全	額	額	微	綠	蘇	表
單純泉	冷	戶	戶	密	灰	ノ	九段
温	冷	戶	戶	密	ノ	ノ	三ノ
單純泉	冷	戶	戶	密	ノ	ノ	三ノ
温	冷	戶	戶	密	ノ	ノ	三ノ
單純泉	冷	戶	戶	密	ノ	ノ	三ノ
温	冷	戶	戶	密	ノ	ノ	三ノ

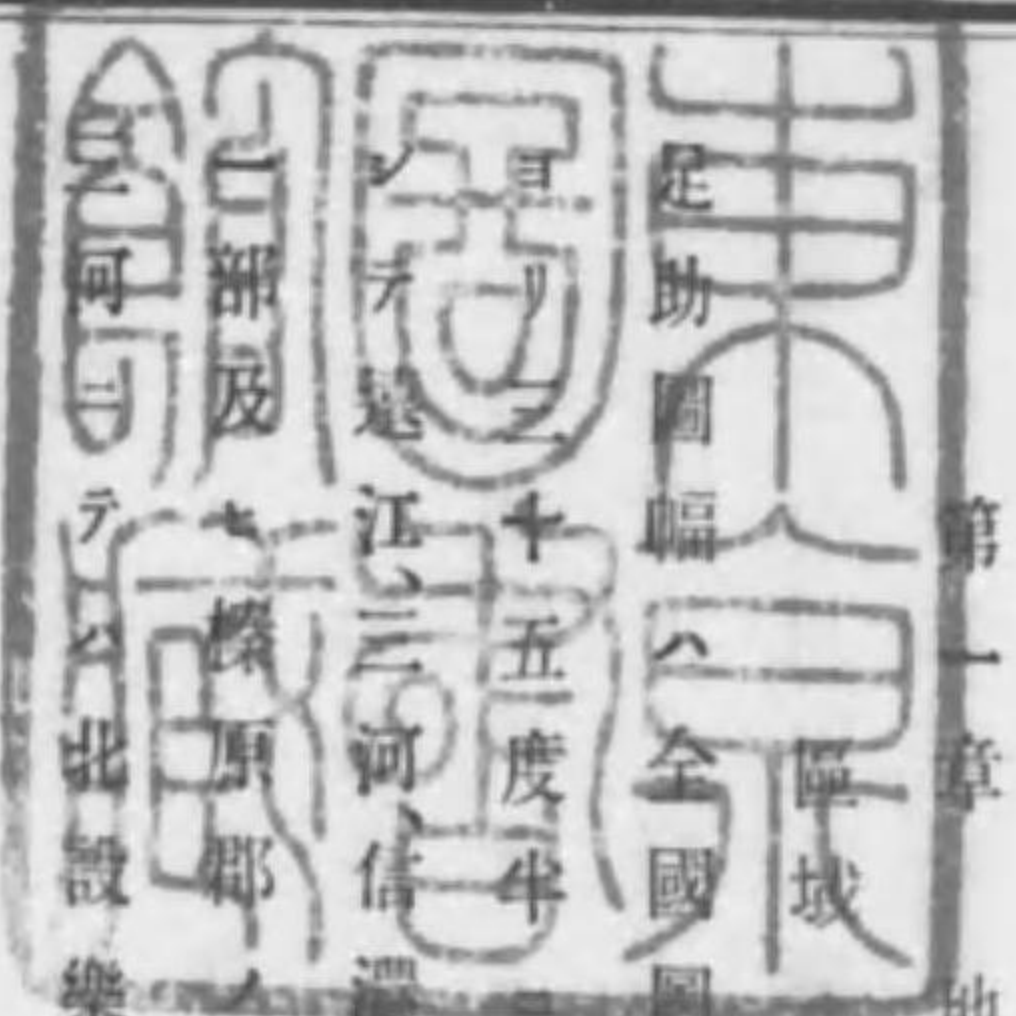
正誤

米川區域	十九丁
淺野區域	二十丁
岩村區域	二十四丁
月吉區域	二十六丁
可兒加茂區域	三十丁
第三紀新層區域	三十二丁
第四紀層	三十四丁
洪積層	三十四丁
沖積層	三十四丁
火成岩	三十四丁
花崗岩	三十四丁
石英閃綠岩	三十七丁
石英斑岩	三十七丁
玢岩	三十八丁

石英粗面岩	三十八丁
粗面岩	四十丁
輝石安山岩	四十丁
玄武岩	四十丁
應用地質論	自四十丁至七十四丁
石灰岩	四十一丁
建築石材	四十二丁
花崗岩	四十二丁
砂岩	四十五丁
陶磁原料及陶磁製造業	四十六丁
磨砂	五十八丁
白土	六十丁
硝子原料	六十一丁
石炭	六十二丁

足助圖幅地質說明書

農商務技師試補 三浦宗次郎述



第一章 地形論

足助圖幅ハ全國圖幅區分中横行(9)縱行(X)ノ位置ヲ占メ北緯三十五度
 五十五度半 亘リ東經百三十七度ヨリ百三十八度ニ至ルモノニ
 ノテ遠江、三河、信濃、美濃、尾張ノ五國ニ跨リ遠江ニテハ周智、豊田兩郡ノ
 一部及ヒ、信濃郡ノ一小部、信濃ニテハ下伊那郡ノ過半、西筑摩郡ノ小部、
 三河ニテハ此設樂、東加茂兩郡ノ過半、西加茂全郡、南設樂、額田、碧海三郡
 ノ一部、美濃ニ在テハ土岐全郡、惠那、可兒兩郡ノ過半、加茂郡ノ一部、尾張
 ニテハ東春日井、愛知兩郡ノ過半并ニ丹羽郡ノ小部ヲ包有シ大約五〇
 一七、一方基米突ノ陸地ヲ有ス

地勢

本圖幅ノ地勢ハ東ニ最高ニ西スルニ從ヒ漸ク低ク圖幅ノ西邊ニ至

砥石	六十六丁
雲母	六十七丁
石墨	六十八丁
石英、石榴石、黃玉石、青玉石、綠玉石	六十八丁
ゴス土(陶磁着色料)	六十九丁
砂鐵及褐鐵鑛(陶磁着色料)	七十丁
鐵鑛	七十丁
錫鑛	七十一丁
安質母尼鑛	七十二丁
鉛鑛	七十三丁
銅鑛	七十三丁
鑛泉	七十四丁

テハ遂ニ一大原野ヲ爲スニ至ル東半ハ之ニ反シ峯巒擧出波浪ノ如シ
赤石山系 赤石山系トハ西ハ天龍上流、設樂三紀凹地及ヒ豊川谷トヨ
リ成レル分界線ヨリ東ハ富士川、釜無川、宮川ニ至ル二線間ニ屏列セル
諸山脈ヲ合稱スルモノニシテ甲府、木曾、富士、足助、静岡、豊橋等ニ延亘シ
本圖幅ニ屬スルモノハ僅ニ其西面ノ一部トス富士圖幅ノ赤石嶽ヨリ
池口嶽ヲ經テ本圖幅ニ入り西南走シテ信遠ノ國界ヲ爲スモノハ赤石
主山脈ニシテ黒倉山、青崩嶺(一一一五米突)熊伏山(一七三三米突)池ノ平
嶺(八一二米突)等ヲ合セ天龍川ヲ超ヘ豊橋圖幅ノ弓張山脈ニ連續ス之
ヲ青崩山脈ト稱ス山住山脈ヘ豊橋圖幅ノ秋葉山ヨリ來リ不動山(一三
〇七米突)山住嶺(一一四四米突)三森山等ヲ併セ富士圖幅ノ奥黒法師嶽
ニ達ス小川路山脈ハ(小川路嶺一六三〇米突)青崩山脈ノ北ニ於テ之ト
並走シ木層、甲府、兩圖幅ニ入ル以上三山脈ハ各並走シテ其方向北々東
ヨリ南々西ヲ指セリ山住、青崩兩山脈ヲ分ツモノハ水窪川谷ニシテ青
崩、小川路兩山脈間ヲ流ル、モノハ和田川又遠山川トス

木曾山系 赤石山系ノ西界線ト木曾川トノ間ニ屹立スル諸嶽ヲ總稱
シテ木曾山系ト云フ北方即チ木曾圖幅ニテハ赤石山系ト並走スル整
然タル山脈ヲ構成シ木曾圖幅ノ駒ヶ嶽ヨリ本圖幅ノ神坂山、野熊山、惠
那山、(二四〇〇米突)ニシテ本圖幅中最高嶽トス(三階峯、阿賀瀧山等ニ連
亘スルモノ是ナリ)駒ヶ嶽山脈(其他ノ峯嶽ニ至テハ地殼ノ皺波ニ起因
スル山脈ヲ爲サス)ニテ只獨立ノ群山ヲナシテ羅列スルニ過キサハ
大ニ地質構造ニ基クモノトス蓋シ是等ノ群峯ヲ構成スルモノハ花崗
岩ニシテ幾多ノ星霜間大氣ノ作用ニヨリテ分解シ雨水之ヲ崩壞シ縱
横ニ谿谷ヲ生シ以テ山系ノ原形ヲ變亂スルニ至リタルモノナリ其山
頂結禿ニシテ樹木ノ蕃茂ニ乏シク滿山往々灰白色ヲ呈スルハ木曾山
系ニ屬スル群山ノ特貌ニシテ皆大氣ノ作用ニ放任シタルニ起因スル
モノナリ是等ハ山林家ノ宜シク注目スヘキ所トス
以上群山ヲ爲スモノ、著名ナルモノヲ舉クレハ信濃ニテハ丹波山(一
一二二米突)彙、大川入山(一九二二米突)彙、斧取山(一三六六)彙、三河ニテハ

段戸山彙等ニシテ相星列シテ豊橋圖幅ニ連ナリ遂ニ三河灣ニ至テ盡
タルヲ見レハ蓋シ諸群山彙ハ總合シテ南西ヲ指シ赤石山系ニ並行ス
ルニ似タリ

木曾川以北ノ連山ハ地質學士ノ所謂美濃飛驒高原ノ南端ニ屬スルモ
ノナレモ本圖幅ニテハ其一小部ヲ現スニ過キス

原野 尾張ノ諸郡ヨリ美濃、可兒、土岐、惠那郡及ヒ三河西加茂郡等ニ延
亘シ矢作木曾兩川間ニ横ハルモノヘ一大原野ニシテ中仙道ノ一線東
北東ヨリ西南西ニ通シ本圖幅中最繁盛ノ部トス

河流 天龍川ヲ最大トシ信濃下伊那郡下久堅ニ於テ始メテ本圖幅地
ヲ浸潤シ遠江豊田郡瀬尻ニ至リテ豊橋圖幅ニ入ル其方向ハ殆ント南
北ナレモ屈曲極メテ多シ信濃ニテハ久米川、阿知川、野池川、萬古川、和智

野川、遠山川等ヲ合セ遠江ニテハ西渡ニテ水窪川、川合ニテ三遠國界ニ
テ大入、振草兩川ノ合シテ浦川ヲ經テ來ルモノニ會ス、氣田川ハ周智、榛

原郡界ノ山地ニ發源シ京丸、小俣、川上ノ小流ヲ合シ豊橋圖幅ニ於テ天

龍川ニ注ク田内川、小龍川ハ三河國北設樂郡ニ屬シ相合シテ豊橋圖幅
ニ入り瀧川ト稱ス

矢作川ハ二源アリ信美國界平谷近傍ニ發源シ上村ヲ經過スルモノハ
本流ニシテ一ハ參信國界離山近傍ニ始マリ根羽、月瀬、大野瀬等ヲ經ル

モノ是ナリ二川小田子ニ於テ相會シ頗ル屈曲ニ富ミ西南流シテ岩津
ニ至テ豊橋圖幅ニ入ル納庫川、段戸川、田代川、阿摺川、摺小川、大伏川、飯野

川、御船川、籠川、足助川ヲ合ス足助川ハ北設樂、東加茂郡界ニ發シ巴川、瀧
脇川ヲ合セ下渡合ニ於テ矢作本川ニ入ル

境川ハ西加茂郡ニ發源シ三尾國界ヲ爲シ名古屋圖幅ニ入り逢妻川ヲ
合シ四日市圖幅ニ於テ知多灣ニ注ク

天白、赤津ノ兩川ハ本圖幅ノ西端ニ發源シ西流シテ共ニ名古屋圖幅ニ
入ル土岐川ハ惠那郡ニ發源シ土岐郡ニ入り小里、肥田、妻木、笠原ノ諸流

ヲ合シ尾張ニ入り半田川、水野川ヲ合セ玉野川ノ名アリ
木曾川ハ中仙道ニ沿ヒテ西流シ本圖幅ヲ經過シ中津川、阿木川、飛驒川

可兒川等ヲ合ス
 沼池 尾張三河(西加茂郡)ノ原野ニ散在シ人爲ニ係ルモノ多シ入鹿池
 ノ如キ即チ其一例ニシテ而シテ最大ナルモノトス足助、名古屋兩圖幅
 ニ跨ル

第二章 地質論

地質類別及諸岩相互ノ關係

本圖幅ノ地盤ヲ構成スル地質ヲ類別スルヲ左ノ如シ

水成岩

Sedimentary Rocks.

片麻岩

Gneiss.

領家雲母片岩及片麻岩

Bioko Mica Schist & Gneiss.

結晶片岩

Crystalline Schists.

秩父古生層

Chichibu System.

三倉層

Mikura Series.

第三紀層

Tertiary.

第四紀層

Quaternary.

洪積層

Diluvium.

沖積層

Alluvium.

火成岩

Eruptive Rocks.

花崗岩

Granite.

石英閃綠岩

Quartz Diorite.

石英斑岩

Quartz Porphyry.

玢岩

Porphyrite.

石英粗面岩

Liparite.

粗面岩

Trachyte.

輝石安山岩

Augite Andesite.

玄武岩

Basalt.

片麻岩、領家片岩ノ兩層ハ本圖幅中最舊ノ水成岩ニシテ所謂太古大統
 Archaean Group ニ屬スルモノナリ片麻岩ハ其區域甚々狭少ニシテ諸岩ト

ノ關係ヲ詳察スルニ由ナク領家岩層ハ花崗岩ノ爲メニ貫通セラル、
 證據甚タ多シト雖モ領家岩ト結晶片岩及ヒ結晶片岩ト花崗岩トノ關
 係ニ至テハ甚タ明瞭ナラサルニ似タリ蓋シ三岩ノ接界スルハ三邊ノ
 國界ニ近キ一大斷層線ニ於ケルモノニシテ領家片岩、結晶片岩兩岩ノ
 如キハ殊ニ著シキ斷層接界線 Fault boundary ヲ以テ相隔ツルナリ(第一圖)
 然レモ兩岩互ニ密接シ領家岩ハ明ニ花崗岩ノ爲ニ破ラレ花崗岩ノ結
 晶片岩ヲ貫通シ若クハ之ヲ變性スル證據ヲ欠クヲ見レハ此花崗岩ハ
 結晶片岩ヨリ舊期ニ屬スルカ或ハ貫通セラレタル結晶片岩ハ斷層ノ
 爲メ深ク陷落セシヤノ二點ニ歸スト雖モ察スルニ前者ヲ以テ當レリ
 トセン歟(舊期花崗岩)抑モ此斷層線ハ信濃諏訪湖ノ南岸ヨリ來リ本圖
 幅ヨリ豊橋圖幅ノ豊川谷ヲ經テ海ニ入ルモノニシテ本圖幅ニテハ和
 田川、八重河内川、水窪川、天龍川、設樂三紀凹地等其形跡ヲ示ス者トス
 古生層ハ數所ニ發達シ就中圖幅ノ東邊ニ顯ル、モノハ最大ノ廣域ヲ
 有シ其西界ノ北部花崗岩ト接界スル所ハ即チ斷層線ニシテ南方結晶

片岩トノ界線モ亦一斷層線ヨリ成レリ美尾原野ニ散在セル古生層ノ
 花崗岩ト接近セルモノハ往々變性ノ特徴ヲ呈シ以テ花崗岩ノ新期ナ
 ルヲ證セリ(新期花崗岩)第三紀層モ亦數所ニ散現シ往々古岩間ノ凹所
 ヲ充填ス設樂第三紀層ノ如キ是ナリ此區域ハ素ト豊川谷ニ連接スル
 陷落地ニシテ地皮ノ弱所ニ相當スルヲ以テ石英粗面岩、輝石安山岩ノ
 如キ火成岩ノ地層ノ裂隙ヨリ迸發セルモノニ富メリ
 火成岩中ノ石英閃綠岩、石英斑岩、玢岩ハ第三紀以前ノ噴出岩ニシテ石
 英粗面岩、輝石安山岩、玄武岩等ハ第三紀以降ニ屬スルモノトス



第一圖



- イ 古生紀地層
- ロ 千枚岩(上部)
- ハ 結晶片岩
- ニ 結晶片岩(下部)
- リ 領家岩
- カ 花崗岩
- シ 設樂川紀層
- ト 片麻岩(變質)
- チ 片麻岩(變質)
- リ 片麻岩(變質)
- 一 斷層線

水成岩

片麻岩層

本層ハ前記ノ斷層線ニ沿ヒ狹帶ヲ爲シ現出シ地質學士ノ所謂鹿鹽片麻岩ノ鹿鹽ニハ岩塊下達伊那郡ヲ以テナリ本岩ナルモノナリ角閃片麻岩ニテ其外貌ハ閃綠岩若クハ玢岩ニ類似ス石英、長石(斜長石ヲ常ニ多シト

ス)角閃石及ヒ稀ニ黑雲母ヨリ成リ角閃石ハ多クハ纖維狀ニ變シ分解シテ石英、長石ヲ圍繞シ其石英、長石ハ往々眼形ヲ呈ス(所謂 Angon structure)長石ハ往々切斷セラレ時ニ切斷セラレタル部分ノ斷層ヲ呈スル等皆以テ強烈ノ壓搾作用 (Shearing action) ニ遭遇シタルヲ證スルニ足ル本岩ノ產地ハ遠江豊田郡川上ヨリ吉澤ニ至ル間、全郡浦川ヨリ三河北設樂郡齒目ニ至ル三遠國界、信濃下伊那郡和田川谷ヨリ青崩峠ニ達スル一線トス

領家雲母片岩及片麻岩層

本岩ハ始メテ遠江周智郡領家村近傍ニ於テ最モ著ク其特性ヲ現ハスモノヲ發見セラレタルノ故ヲ以テ此名ヲ命セラレタルハ己ニ豊橋圖幅ニ説明セリ本圖幅ニアルモノハ同圖幅ヨリ延亘シ來ルモノニシテ其廣袤大ナラス多クハ狹域ヲナシ花崗岩ニ圍繞セラレ其層向ハ概スルニ主山脈ノ方向ト同ク東北ヨリ西南ヲ示セリ暗黝色ニシテ石英、黑雲母ノ外少量ノ長石ヲ含有スルモノハ雲母片岩

ニシテ長石ノ量稍増加シ片麻構造ヲ呈スルモノハ片麻岩ニシテ時ニ稍粒狀ナルモノアリ之ニ反シ長石、黒雲母共ニ大ニ減少スルモノハ石英岩ニ類シ時々兩岩層中ニ現出シ是種ハ常ニ包裹物トシテ黒雲母ノ微片ニ富メリ副成分トシテ現出スルモノニシテ就中特種ナルハ石榴石ニシテ常ニ小粒ヲナシ岩中ニ散布ス其他ハ白雲母、深紅石、(Biotite) 往々針狀ヲナシ所謂 *Microplitic* 構造ヲ呈ス(風信子鑛等トス)

本岩ノ花崗岩ニ貫通セラル、ノ例証ハ夥多ニシテ枚舉スルニ遑アラズ又本岩ハ極メテ薄層ヲナシ時々花崗岩中ニ現出スルモノアリテ花崗岩之ヲ貫通シ或ハ層間ニ挿入シ若クハ本岩ニシテ花崗岩質混同シ兩岩質ノ互層ヨリ成レルモノアリ是ニ依テ之ヲ考フルニ是舊花崗岩ハ本岩沈積ノ際ヨリ已ニ時々迸發ヒシモノナラン是ノ現象ハ信濃下伊那郡及ヒ三河ノ花崗岩ニ多シ

下伊那郡ノ花崗岩中ニ在ル石灰岩モ恐クハ同一ノ理ニ基キ花崗岩ト其生成ノ期ヲ共ニシ本層ニ屬スルモノナラン何トナレハ石灰岩ヲ圍

繞シ及ヒ之ニ接近セル花崗岩ハ領家岩ノ薄層ニ富メルヲ以テナリ本石灰岩ハ白色、黝白色等ニシテ往々晶糖狀結晶質ナリ (*Baeharoidal*)

結晶片岩層

遠江豊田、周知郡ニ發達シ二様ノ別アリ上位ニアルモノハ千枚岩 *Phyllite* 或ハ *Phyllonite* テ本層ノ大部ヲ占メ黒色、黝色ニシテ石英ノ微分及ヒ石英、榧子石、滑雲母ヨリ成リ往々薄片ニ分離スル性ヲ發達シ又絹糸光ヲ呈スルモノアリ本岩ハ往々最薄ノ結晶質片岩性ノ石灰層ヲ挿入シ豊田郡佐久間、上野間及ヒ半場、早瀬間等ニ散見ス一ハ本層ノ西邊ヲナス斷層線ニ限レルモノニシテ多クハ岩面ニ長石ノ斑凸アリ (*Spotted Schists*) 二種アリテ常ニ互層ス一ハ綠色ニシテ綠泥片岩 (*Chlorite Schist*) ト稱シ黑色ナルモノハ石英千枚岩又石墨片岩ナリ (*Quartz Phyllite or Graphite Schist*) 綠泥片岩ハ綠泥石、石英、長石、榧子石ノ外電氣石、赤鐵鑛、方解石、磁鐵鑛等ヨリ成リ石墨片岩ハ石墨ノ微分及ヒ石英、長石、榧子石、滑雲母、石榴石、赤鐵鑛、磁鐵鑛等ヨリ成リ周智郡水窪ニ現出スル一種(同村ヨリ池ノ平嶺ニ至ル間)ハ

副成分トシテ紅藤石ヲ含有ス

秩父古生層

本圖幅ニハ秩父古生層ノ上部及ヒ中部ヲノミ現出シテ其下部即チ御
荷鋒層ヘ更ニ露出スルコトナレ其上部ハ諸處ニ發達シ板岩、硬砂岩、石
灰岩、角岩、ラヂヲラリヤ「板岩、凝灰岩等ヨリ成リ最モ普通ナルモノハ板
岩及ヒ硬砂岩ニシテ常ニ互層ス板岩ハ黑色、黝色ニシテ堅硬ナルアリ
又分離性ヲ有スルモノアリ硬砂岩ハ黝色ニシテ硬性密質ナリ石灰岩
ハ黝白、黝黑色ニシテ化石ヲ含有セス角岩ハ黝色ニシテ薄層ヲナレ板
岩、硬砂岩間ニ挿入シラヂヲラリヤ「板岩ハラヂヲラリヤ「蟲殻ヲ含ミ凝
灰岩ハ凝綠岩質ニシテ褐色、綠色ノ二種アリテ現出甚々稀ナリ
圖幅ノ東邊ヲ構造シ信遠ニ跨モノハ最廣ノ疆域ヲ有スルモノニシテ
富士、豊橋兩圖幅ニ連亘シ其層向ハ北々東ヨリ南々西ニ走リ赤石山系
ヲ構成シ數回轉覆シテ向斜、背斜層ヲ示シ就中稍著シキモノハ山住背
斜層ニシテ山住山脈ト並走ス地質ハ板岩、硬砂岩ノ互層中ニ石灰岩ヲ

チヲラリヤ「板岩、角岩、凝灰岩ヲ交ユ石灰岩ハ甚々薄層ヲナシ轉覆シテ
數所ニ現出スルモノ多シト雖モ下伊那郡下栗近傍ニアルモノハ稍厚
層ニシテ之ヨリ上位ニアルモノトス
下伊那神坂嶺ノ麓ナル花崗岩地ニアルモノハ甚々狭小ノ一區域ニシ
テ板岩、砂岩、角岩ヨリナリ石英斑岩ノ爲メニ貫通セラル
美濃加茂、土岐、可兒郡ニ亘リ木曾川畔ニ發達スルモノハ美濃高原ノ一
部ヲ構成スルモノニシテ板岩、硬砂岩ノ累層ヨリ成リ角岩、石灰岩ヲ交
ユ蓋シ石灰岩ハ一帶ニ屬スルモノナレト轉覆シテ數處ニ現出ス
可兒、土岐郡ヨリ尾張ニ入り尾美兩國界ヲナスモノハ其周圍ニ於テ第
三紀層ニ掩ハレ板岩、硬砂岩、角岩ヨリナリ二條ノ石灰岩ヲ挿入ス

三倉層

本層ハ豊橋、静岡兩圖幅ニ能ク發達スルモノニシテ本圖幅ニ連亘シテ
遠江周智郡田河内ニ其北隅ノ一端ヲ顯ハスノミナリ岩種ハ泥板岩及
ヒ砂岩トス

第三紀層

第三紀層ハ諸處ニ散布シテ發達ス(一)ハ三河北設樂郡(二)ハ信濃下伊那郡米川近傍(三)ハ全淺野近傍(四)ハ美濃惠那郡岩村近傍(五)ハ全土岐郡月吉近傍(六)ハ全可兒郡ヨリ加茂郡ニ亘リ發達スルモノニシテ未タ細密ニ各自生成ノ期ヲ區別スル能ハサルモ各獨立シテ現出シテ年期ニ於テモ大差ナキモノト考フルヲ以テ單ニ之ヲ第三紀舊層ト稱セリ然ルニ美濃可兒、土岐郡ヨリ尾張三河ニ連亘セル第三紀層ハ其最上位ナルモノハ頗ル厚キ礫層ヨリ成リ前期ノ第三紀層ヨリ遙カニ新期ニ屬シ可見郡ニ於テ舊層ト不整合シテ接界スルヲ以テ兩層ヲ通稱スル能ハサルニヨリ茲ニ姑ク第三紀新層ト稱シテ舊層ト區別セリ

- 一 設樂區域
- 二 米川區域
- 三 淺野區域
- 四 岩村區域

第三紀舊層

- 五 月吉區域
- 六 可兒加茂區域
- 七 第三紀新層區域

第三紀新層(砂礫、粘土、凝灰質岩及褐炭等ヨリ成ル)

第三紀舊層

(一)設樂區域

三河北設樂郡ノ過半ヲ占メ豊橋圖幅ノ南設樂郡ニ連亘シ古岩ノ凹處ニ沈積シタルモノニシテ其外周稍、楕圓形ニ近シ岩種ハ凝灰岩、凝灰頁岩、砂岩、疊岩、頁岩等ナリ凝灰岩ハ諸岩中最要ノ位置ヲ占ムルモノニシテ白、灰、褐、黝色等ヲ呈シ堅質ノモノアリ、軟質ノモノアリ之ヲ顯微鏡下ニ照スニ往々石英、直長石、斜長石等ノ斑片ヲ散布ス砂岩モ亦凝灰岩ニ次キ多量ノ岩種ニシテ堅硬ノモノアリ柔軟ニシテ凝灰質ヲ交ユルモノアリ黃褐色凝灰砂岩ハ屢、著大ノ團塊(Concretions)ヲ發達ス砂岩ハ往々化石ヲ埋藏ス北設樂郡河宇連、坂宇場間ノ一所(字イノシ、

ゴーロ)ヨリハ砂魚齒及ヒ *Peeten* (帆立貝ノ一種)、*Lima* (不留伊貝ノ一種)、*Pactin* (陣笠貝ノ一種)等ノ貝化石全郡本郷、三ッ瀬間ニアル者ハ *Venus*, *Tellina* 等ノ貝化石、全郡下田村ノ砂岩ハ *Lucina* (満月貝ノ一種)、*Cytherea* (蛤ノ類ナランカ)等ヲ産スト雖モ保存甚タ不完全ナリ凝灰頁岩ハ凝灰物ノ頁岩ニナリタルモノナリ灰白色ニシテ北設樂郡小林村字芝石峠ニアルモノハ木葉化石ヲ埋藏シ其屬種ハ左ノ如シ

Carpiniphyllum pyramidale Göp. ? (最野ヨリ葉片ニシテ「ナト」モトホルス「氏」ノ類似「ス」)
Fagus sp., *Ilex* sp., *Acer* sp. 及 ヒ *Betula* (?), *Quercus* (?)

以上ノ化石ハ保存ノ不完全ナルト其數ノ僅少ナルトニヨリ生成ノ期ヲ確定スル能ハサルモ本層ハ恐クハ「プリオン」期ヨリ舊成ノモノナランカ(「ミオン」期歟)蠟岩、頁岩ハ現出稀レナルモノニ屬ス本層ノ層向ハ概スルニ北東方ヲ多シトス傾斜ハ一様ナラスシテ新火成岩(安山岩、粗面岩等)ノ爲ニ貫通セラル、モノ甚タ多シ次ニ掲クルモノハ北設樂郡田口ヨリ川合間ノ地質断面圖ナリ

圖 三 第



一之万十尺例比 (二)米川區域

天龍川ノ東ニ位シ下伊那郡米川、野池ニ跨ル一小區域タリ岩種ハ凝灰岩、凝灰砂岩、蠟岩等ナリ
 米川村字ダチガラニ於テ凝灰岩下ニ凝灰砂岩及蠟岩アリ二層ヲ分ツモノハ極メテ薄キ炭層ニシテ炭層ニ近キ凝灰岩ハ甚タ木葉化石ニ富ム其屬種ハ左ノ如シ(横山氏)

Sequoia Langsdorffi BROWN, sp.
Carpinus grandis U.S.O.
Castanea Kubinyi KOVATS.

ノデノ類
 栗ノ類歟

Planora Ungeri Err.

是等木葉化石ハ「ブリオシオン」ヨリ舊期ニ屬スルモノナレハ本層ハ「ミ
オレオン」期ニ相當スルモノナランカ蠻岩ハ米川木村ニ於テ貝化石ヲ
埋藏シ (Ostrea (牡蠣)最モ多シ

本層ハ傾斜甚々緩徐ニシテ往々殆ント水平ノモノ多シ

(三)淺野區域

信濃下伊那郡淺野村近傍ニアル小區域ニシテ東ハ天龍川ニ界シ其疆
域稍南北ニ長フシテ東西ニ短シ岩種ハ凝灰岩、砂岩、凝灰砂岩等ニシテ
動植物化石ヲ埋藏ス

淺野村化石產地ニハ化石ヲ含有セル岩層四アリ最上位ノモノハ硬質
粗粒ノ砂岩ニシテ數多ノ貝化石ヲ出ス其屬種ハ次ノ如シ(横山氏)

Pecten pusio Pennant.

海扇ノ類

Nucula Cobboldiae Sow.

江戸綿貝

Cardita scalaris Sow?

江戶綿貝

Dentalium entale L.

白糸貝

Mytilus sp.

淡菜ノ一種

Modiola sp.

蛤仔ノ類

Placuna sp.

魁蛤ノ一種

Tapes sp.

乙姫貝ノ類 歟

Arca sp.

陣笠貝ノ一種

Panopaea? sp.

筭貝ノ一種

Patella sp.

第二層ハ白色凝灰岩ニシテ木葉化石ヲ出ス

Turritella sp.

1. *Carpiniophyllum pyramidale* Gp. sp. japonicum.

榛科

2. *Castanea* cfr. *Kubinyi* Kovats.

栗ノ類

3. *Juglans nigella* Hk.

胡桃ノ類

4. *Liquidambar* sp. (*formosana fossilis?*)

楓ノ類

5. *Vitiphyllum* sp. (*V. labrusca* L. fossilis = 近似スト)

以上ノ植物化石ハ瑞典ノ碩學ナトホルスト氏ノ査定セシ所ニシテ同氏ノ説ニ依レハ當地ノ化石ハ「ミヲレン」及「ブリヲレン」兩期ノ植物ニ近似スルヲ以テ其年期疑ハレキモノナリト蓋シ(1)(2)(3)ハ「ブリヲレン」ヨリ舊層ニ出ツルト雖モ(4)(即チ *Liquidambar formosana fossilis*)ハ茂木ノ如キ新層(肥前西彼杵郡ニシテ「ブリヲレン」以降ノモノ)ニモ出テ又萱草ノ如キ舊層(羽後秋田郡ニシテ「ミヲレン」以上ノモノ)ニモ産シ(5)ハ *Vitis labrusca* L. fossilis = 近似シ是種ハ茂木ニ産シ又 *Vitis labrusca* L. 山葡萄ハ現時尙本邦及ヒ北米ニ産スト云フ

Cerithium sp.

Columbella compla Lischke.

Natica Yamarekiana Reeve?

Murex?

懷貝ノ類

ツメタ貝歟

Nassa Japonica Adams.

Tornatina sp.

Dentalium entale Linné.

Dosinia sp.

Modiola?

Solen sp.

Anomia sp.

Nucula sp.

Tellina iridella Martens.

Cullellus sp?

Myodora sp?

Ostrea gigas Th.

Lucina borealis L.

Leda sp.

松虫貝

白糸貝

白蜆ノ類

竹蠅^テノ一種

牡蠣

滿月貝

第三層ニ次クモノハ凝灰岩ニシテ其下亦第三層ノ如キ凝灰砂岩ハ即チ第四層ニシテ夥シク *Ostrea brigas* Th. (牡蠣ノ一種)ノ貝殻ヲ埋藏ス

浅野村ヲ距ル北一里餘大島ノ砂岩ヨリモ貝化石ヲ産ス(横山氏)

白鳥貝

Tellina nasuta Cour.

Tellina sp.

ツメタ貝ノ類

Lyonsia sp?

Natica sp.

筭貝ノ一種歟

Turritella?

本層ノ傾斜ハ緩慢ニレテ水平ニ近キモノ多ク稀ニ三十度ニ達スルモノアリ全層ノ厚サハ浅野村ニ於テ三百六十尺餘(横山氏測定)ナリ

(四)岩村區域

美濃國惠那郡岩村ヲ中央トシ其疆域北東ヨリ南西ニ長ク北西ヨリ南東ニ狭シ岩種ハ凝灰岩、凝灰砂岩ニシテ動植物化石ヲ産スレモ其數多カ

ラスシテ保存モ亦甚タ不完全ノモノ多ク其產地ハ次ノ如シ

木葉化石

惠那郡馬場山田

Acor sp? (藪)

岩種

灰白凝灰岩

全 黒羽根

Quercus sp? (榎)

全

凝灰砂岩ニシテ貝化石ト共ニ産ス

全 富田

識別シ難シ

全

凝灰岩

全 富田

Phyllito sp?

全

凝灰岩

全 原

Quercus sp? (榎)

全

貝化石ヲ産ス

全 原

Quercus sp? (榎)

全

貝化石ヲ産ス

貝化石

全 原 *Cardium*, *Linnæ*, *Arca*,

Pecten, *Tellina*, *Solen*,

Limopsis 等ナリ

畫ク型像ニシテ岩種ハ凝灰砂岩ナリ

全 阿水

Leda sp?

凝灰岩中ノ型像

全 富田

Venus sp.

多クハ種ハ凝灰岩ニ

以上ノ化石ハ甚タ不完全ニシテ地質年期ヲ定ムルニ足ラスト雖モ察
スルニ本層ハ第五及第六區域ニ接續スヘキモノナレハ恐クハ之ト期
ヲ同フスルモノナラン

(五)月吉區域

美濃土岐郡土岐、戸狩、月吉、高山等ニ連亘シ凝灰岩、砂岩、凝灰砂岩等ヨリ
成リ化石產地ハ戸狩、月吉ノ二村ヲ最モ多シトス戸狩ニハ厚砂岩層ア
リテ上部ニハ稀ニ木葉化石ヲ散布シ貝化石ハ下部ノ岩瘤(Nodule)ニ多
シ月吉ニテハ下部ニ稍、黒綠色ノ凝灰岩アリテ貝化石ニ富メリ
「ブラウンス」氏ハ曾テ兩處ノ化石ヲ檢覈シ之ヲ東京近傍地質編ニ録載
セリ其屬種ハ左ノ如シ

- 夜啼貝 *Fusus inconstans* Lischke. 月吉ニ多シ
- 笠入貝 *Nephtuca islandica* Chemnitz 全上
- ラツバ貝 *Buccinum leucostoma* Lischke. 戸狩
- arthritica* Valenc. 月吉及戸狩

- 母衣貝 *Dolium luteostomum* Kuster. 全上
- 小甲貝 *Eburna japonica* Reeve. 月吉
- ツメタ *Natica lamarekiana* Recluz. 全上
- 小角貝 *Cerithiopsis rugosa* Gould. 全上
- 川合貝 *Lampania zonalis* Lamarek. 全上
- 筍貝 *Turritella communis* Risso. 月吉、戸狩
- 蚯蚓貝 *Vermetus imbricatus* Dunker. 戸狩
- 猫貝 *Globulus superbus* Gould. 月吉
- オホノ貝 *Mya arenaria* L. 月吉、戸狩
- 竹蠅 *Solen grandis* Dunker. 戸狩
- Soletellina Boeddinghausii* Lischke. 月吉、戸狩
- シホフキ貝 *Maetra veneriformis* Desh. 月吉
- 白鳥貝 *Tellina nasuta* Conr. 戸狩
- 白アサガハ *Dosinia exoleta* L. 月吉及戸狩ニ多シ

玉 貝	<i>Natica pyriformis</i> Recluz.	月吉
イセシロ貝	<i>Cyclina Sinensis</i> Gmelin.	月吉、戸狩
紫 蛤 仔	<i>Saxidomus purpuratus</i> Sow.	戸狩
金 魚 貝	<i>Cardium nuticum</i> Reeve.	月吉、戸狩
鳥 貝	” <i>californiense</i> Desh.	全上
滿 月 貝	<i>Lucina borealis</i> L.	全上
魁 ^ア カ ^ハ ハ ^ビ 蛤	<i>Diplodonta trigonula</i> Bronn.	全上
江 戸 錦 貝	<i>Arca inflata</i> Reeve.	月吉
比 翼 貝	<i>Nucula Cobboldiae</i> Sow.	月吉、戸狩
秋 田 貝	<i>Pecten plica</i> L.	全上
牡 蠣	” <i>Yezoensis</i> Jay.	月吉(稀ナリ)
	<i>Ostrea gigas</i> Th.	月吉、戸狩

以上化石中殊ニ戸狩ニ多キモノハ *Diplodonta trigonula* Bronn. 及 *Turritella Com-
munis* Risso. (筭貝)等之ニ次キ殊ニ月吉ニ多キモノハ *Cyclina sinensis* Gmelin. (イ

セシロ貝) *Vicarya carousa* Martens (月ノヲサガリ)等ナリ *Vicarya carousa* Martens ハ方言
 之ヲ「月ノヲサガリ」ト稱シ菊池氏ノ識別ニ係ルモノニシテ印度及「シヤ
 パ」ノ「ミヲシ」層ニ特現スルモノナリト云フ然ルニ「ブラウンス」氏ハ
 東京近傍地質編中ニ於テ月吉三紀層ノ「フリオシ」期ニ屬スヘキヲ
 説キ「ナトホルスト」氏ハ日本植物化石編ニ於テ「ガイレル」氏ノ査定セシ
 月吉ノ植物化石ヨリハ其恐クハ「ブリオシ」以降(茂木層ヨリ新成ナ
 ラント)ニ屬スヘキヲ論セリ今「ガイレル」氏ノ査定セシモノヲ擧クレハ
 左ノ如シ

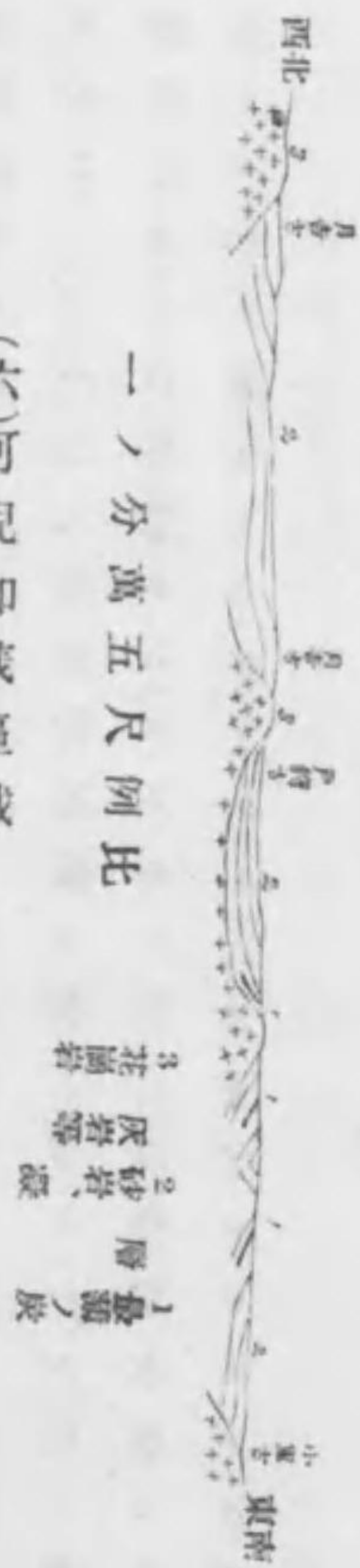
1. *Castanea vulgaris* Lam. fossilis. 栗
2. *Ostrya virginica* Willd. fossilis.
3. *Syrinx Obassia* S. Z. fossilis. 玉鈴花^{ハクワンボク}
4. *Quercus Stuxbergi* Nath. 榊ノ類

是ニ依テ之ヲ考フレハ本區域ノ三紀層ハ「ブリオシ」層「ミオシ」層ノ
 兩期中何レニ屬スヘキヤ未タ容易ニ判定シ難キモノトス川合新田ノ

含殼砂岩ハ往々燧石質ノ岩瘤ヲ含ミ其岩瘤ハ珊瑚ニ類似セル殼像ヲ有セリ

本層ノ層向ハ北東ヨリ南西ニ走ル如ク傾斜ハ通常緩漫ナレド變動ヲ受ケタルモノハ稍急斜ヲ爲シ二十乃至三十度ヲ呈ス第四圖ハ小里、月吉兩村間ノ地質斷面圖トス

圖 四 地 質 斷 面 圖



(六)可兒加茂區域

美濃可兒郡御嵩、久々利等ヨリ西方尾張丹羽郡ニ入り名古屋圖幅ニ連亘シ亦北西木曾、飛騨川ヲ超ヘ加茂郡ニ發達ス岩種ハ蠟岩、凝灰岩、砂岩、凝灰砂岩等ニシテ蠟岩ハ暗黝色ニシテ通常上位ヲ占メ凝灰岩、凝灰砂

岩ハ其下ニ成層シ四尺乃至五尺ノ炭層ヲ含ミ(應用地質ヲ參看スヘシ)灰白色ナリ砂岩ハ黝色ニシテ時ニ硅化木ヲ含ミ堅硬ナラサルモ往々建築石材ニ使用ス
凝灰岩、凝灰砂岩、砂岩ハ木葉化石ヲ埋藏シ產地ハ可兒郡中村、久々利、加茂郡中川邊(飛騨川岸)等トス
中村ニテハ石炭層ノ上部タル凝灰岩中ヨリ *Taxodium* sp. (*T. disticum* Heer?)ヲ出ス又「ナトホルスト」氏ハ日本植物化石編ニ「ガイレル」氏ノ査定セル中村産ノ植物化石ヲ記スルコト左ノ如シ(郡+中村日本植物化石編ニハ美濃加茂ナラ)

- 1. *Fagus ferruginea* Arr. fossilis. 山毛櫨ノ一種
- 2. *Acanthopanax acerifolium* Nath. ウコギノ類
- 3. *Vitis Labrusca* L. fossilis 山葡萄

中川邊村ノ飛騨川西岸ヨリ出ツルモノハ炭層下ノ砂岩ニ埋藏セラル
モノニシテ不完全ニシテ識別ノ難シ (*Polygonum cuspidatum* s. z. fossilis?; Zelkova

Koeki Sieb. fossils?, Fagus? 等ニ類似スルモノナラシカ)

以上「ガイレル」氏査定ノ植物化石ハ悉ク茂木ニ産スルモノナレハ或ハ茂木層ト同期ナルヘキヤモ知ルヘカラスト雖モ本層ハ月吉區域ニ連接スヘキモノニシテ未タ容易ニ其時期ヲ確定スル能ハサルモノトス(加)フ氏ノ説ニ依レハ(1)茂木層ト同期ニ屬スルモノナラシカ(2)ヲ本層ノ層向ハ北西、西北西ヲ多シトシ傾斜ハ一定セス平坦ナルモノアリ又變動ヲ受タル部分ハ往々急斜ヲ現ハセリ

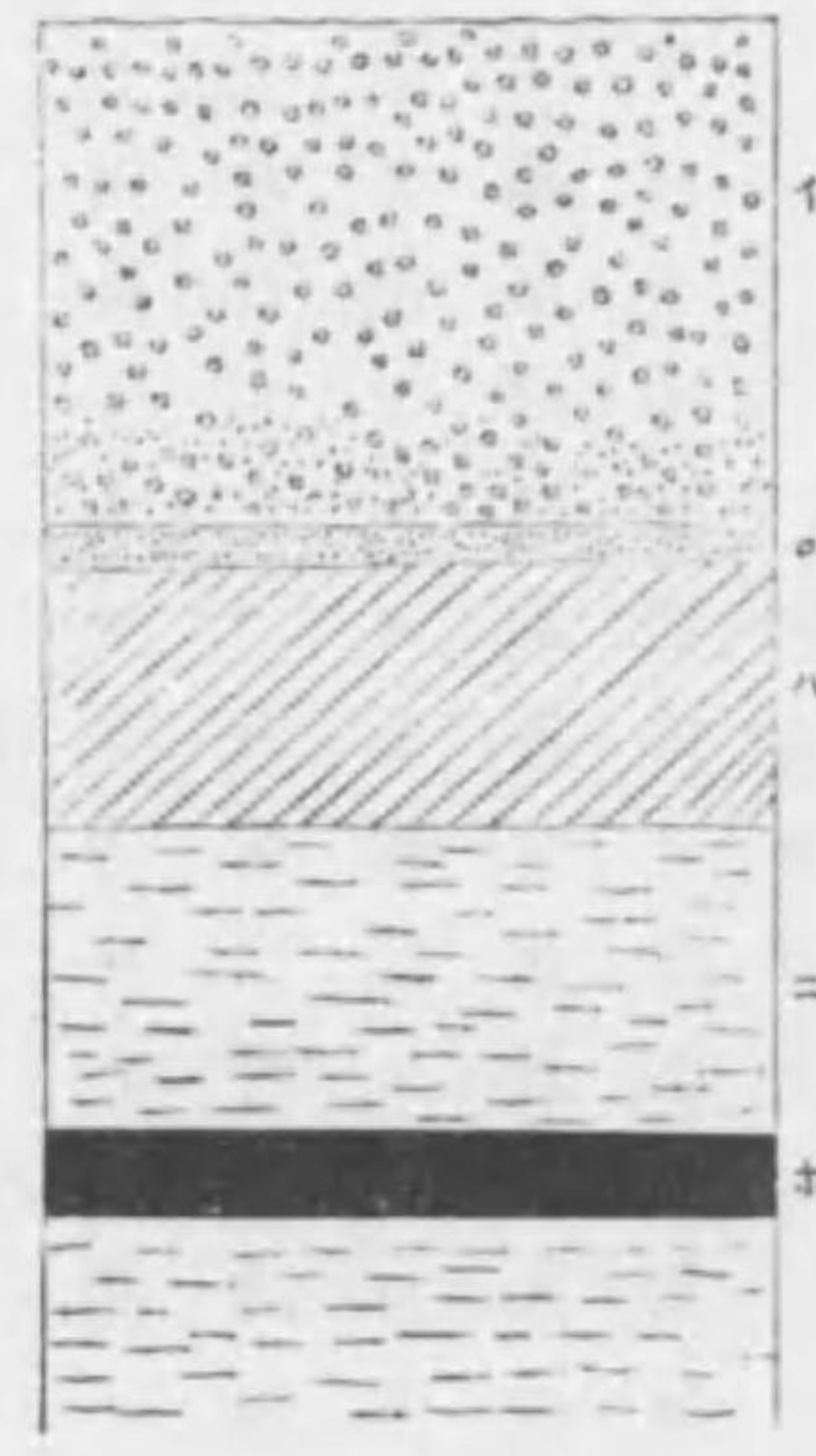
第三紀新層

(七)第三紀新層區域

美濃可見、土岐兩郡ヨリ尾張丹羽、東春日井、愛知ノ諸郡及ヒ三河西加茂郡等ニ亘リ西延シテ名古屋圖幅ニ入ルモノニシテ發達ノ模様稍、洪積層ニ類似ス蓋シ本層ハ第三紀最新期ニ屬スルモノニシテ礫、凝灰岩、浮石、粘土ノ諸層ヨリ成レリ第五圖ハ諸層一般ノ排列順序ヲ示スモノニシテ礫層(イ)ハ常ニ上位ニアリテ美濃尾張等ニテハ往々厚層ヲ爲

ス凝灰岩(ロ)ハ其下ニ成層シ通常灰白黝色ニシテ粘土質ナリ採掘シテ洋紙製造ニ使用スルコアリ浮石層(ハ)ハ黝灰色ニシテ厚層ヲナシ往々丈餘ニ達ス諸所ヨリ採掘シテ磨砂ニ供ス粘土(ニ)ハ常ニ最下位ヲ占メ厚層ナリ黝色ニシテ往々微細ノ炭片ニ富ムモノハ木節ト稱シ尾張瀬戸等ニテハ陶磁ノ原料タリ亦尾張愛知郡長久手岩作等ニテハ四尺乃至五尺ノ礫炭(ホ)ヲ本層中ニ挿入セリ

第五圖



イ 礫層
ロ 凝灰岩
ハ 浮石層
ニ 粘土
ホ 炭層

以上列舉セシ諸層中凝灰岩浮石ノ二層ハ全ク其形跡ヲ失ヒ礫層ノ直ニ粘土ヲ掩フコアリ尾張瀬戸近傍ノ如シ又二層間時々最薄ノ浮石礫層ヲ存スルコアリ(尾張東春日井郡下原)

第四紀層
洪積層

洪積層ハ其區域大ナラスレテ數所ニ小區域ヲナシテ發達スルニ過キ
ス圖幅ノ北部ニテハ天龍川畔、中津川ヨリ細久手ニ至ル中仙道及木曾
飛驒二川ノ沿岸ニシテ南部ニテハ矢作川ニ沿ヒタル西加茂、碧海郡ノ
ミニシテ礫、砂、礫層等ノ諸層ヨリ成立スト雖モ重ニ發達セルモノハ
礫層ニシテ砂及礫層ノ如キハ稍稀ナルモノトス

沖積層

諸川ノ兩岸ニ集積シタルモノニシテ本圖幅ニテハ其區域甚々狹隘ナ
ルモノニシテ砂、礫、粘土等ヨリ成レリ

火成岩

花崗岩

殆ント圖幅三分ノ二ヲ占メ諸岩中最廣ノ區域ヲ有スルモノニシテ其
構造一樣ナラス粗粒、細粒ノ二種アレモ粗粒ノモノ遙ニ多クシテ細粒

ノモノハ三河ニ多シ石英、長石、(直長石、斜長石)黑雲母、白雲母ヨリ成ルモ
ノハ正花崗岩 Normal Granite ナレモ稀ナリ細粒ニシテ往々三河ニ發達ス
黑雲花崗岩 Granite ハ最多ノ種ニシテ石英、長石、黑雲母ヨリ成リ之ニ角
閃石ヲ加フレハ閃黑花崗岩 Hornblende Granite ニシテ亦頗ル多シ副成分又
ハ包合物トナリ現出スルモノハ風信子鑛、磷灰石、柘榴石等ニシテ柘榴
石ハ領家岩ニ觸接スル花崗岩ニ多ク亦細粒ノ正花崗岩及ヒ白雲花崗
岩 Muscovite Granite ニ含有セララル(三河北設樂郡上津具及ヒ東加茂郡等)花崗
岩噴出ノ期ヲ察スルニ悉ク同期ニ屬スルモノニ非ス信濃下伊那郡等
ニアルモノハ雲母片岩ノ薄層ヲ挿入シ茲ニ相互ノ關係ハ兩岩ノ期ヲ
同ニスルカ如キ觀ヲ呈スルコトハ前ニ説ケリ之ニ反シ圖幅ノ西部美濃
加茂、土岐、可兒郡等ニ於テハ古生紀岩ノ花崗岩ノ爲メニ變質ヲ受ケタ
ル例證ニ乏シカラス可兒郡謠坂下ニ花崗岩ニ接シ露出セル黑板岩ハ
觸接變質(Contact metamorphism)ノ徵候トシテ夥多ノ斑紋ヲ呈シ顯微鏡下黑
雲母ノ微片ヲ發達スルヲ見ル亦同所ニ近ク一條ノ花崗斑岩脈ノ木曾

川ヲ超ヘ可兒、加茂兩郡ニ跨リ北々西ヨリ南々東ニ古生層ヲ横斷スル
 モノアリ此ノ如キ花崗岩ハ前記ノモノヨリ遙ニ新时期ニ屬スルモノニ
 シテ要スルニ本圖幅ノ花崗岩ハ太古大統(領家雲母片岩層)ノ頃ヨリ古
 生紀以降ニ至ルマテ連續シテ時々迸發ヲ逞フセルモノナラシカ
 斯ノ如ク花崗岩ニハ新舊ノ差アリト雖モ其岩質ニ差異ナキヲ以テ之
 ヲ區畫スルコトハ至難ニシテ到底爲スヘカラサルモノトス然レモ下伊
 那郡、北設樂郡、東加茂郡等ニ現出スル舊花崗岩ハ往々片麻的構造ヲ呈
 スルモノアリ是レ其生成後他岩ト共ニ地皮ノ變動ヨリ横壓力ヲ受ケ
 タルニ起因スルモノナリ(舊花崗岩ハ下伊那郡於テハ片麻岩ニ包圍セ
 ノル然レモ片麻岩所ニシテ花崗片麻岩ノ如キハ生成ニ關シテ諸國地質學
 府足助兩國部ニ於テ其岩)花崗岩中ノ長石ハ諸成分中最モ分解シ易キ
 モノニシテ花崗岩ノ大氣ニ曝露セルモノハ多少分解ヲ呈セサルモノ
 稀ニシテ就中三河美濃尾張ノ花崗岩ハ最モ著シク西加茂郡、東春日井
 郡、愛知郡、土岐郡等ニ於テハ分解セル花崗岩ハ陶磁製造ノ材料トシテ

石英閃綠岩

本圖幅礦產物ノ主位ヲ占ムルモノトス(應用地質ヲ參看スヘシ)
 現出稀ニシテ信濃下伊那郡野池及ヒ三河北設樂郡黒川等ニ花崗岩中
 ニ小露出ヲ爲シ其狀花崗岩ヲ通貫シ迸發シタルカ如シ黒色、黝色ニシ
 テ石英斜長石、角閃石ノ外黒雲母ヲ加フルヲ見レハ本岩ハ即チ英雲閃
 綠岩 Quartz Mica Dioriteニ屬スヘキモノトス

石英斑岩

三區域ニ發達ス(一)ハ信美國界ヨリ神坂嶺ニ亘リ延テ木曾圖幅ニ入り
 (二)ハ美濃惠那、加茂郡界ヨリ全ク木曾圖幅ニ延亘ス(三)ハ惠那郡大井、岩
 村間ニ現出ス
 抑々本岩ハ花崗岩ヲ貫キ迸發シタルモノナレハ素ヨリ花崗岩ヨリ新
 期ニ屬スルモノニシテ亦本岩及古生層相互ノ關係ヲ察スルニ神坂嶺
 ニ於テハ兩岩接界シ古生紀岩ノ著シク變質セルノミナラス石英斑岩
 ノ古生紀板岩ヲ貫通シタル確證アレハ其古生紀ヨリ新时期タルコト亦明

ラカナリ

黝色若クハ黝灰色ヲ呈シ顯微鏡下ニ檢スルニ石基ハ微晶質ナルアリ
(Microcrystalline Groundmass) 幽晶質ナルアリ (Cryptocrystalline) 或ハ微晶質ナルアリ
テ (Microfelsitic Basis) 其中ニ散布スルモノハ重ニ石英、長石トス長石ハ直長
石、斜長石ノ二種アレモ直長石ヲ以テ常ニ多量トス重硅酸鹽石 Biotites
ハ常ニ分解甚シクシテ識別スルニ難シト雖モ多クハ黑雲母ニ屬セリ

玢岩

遠江周智郡諸葛ニ古生紀板岩間ニ層狀ヲナスモノアリ薄黝色ニシテ
顯微鏡下ニ檢スルニ幽晶質石基中ニ石英及ヒ斜長石ヲ散布シ石英玢
岩ノ一種ニ屬ス (Quartz Porphyrite)

石英粗面岩

三河北設樂郡中諸處ニ設樂第三紀層ヲ貫通シテ現出ス其迸發期ハ第
三紀後ニ屬スヘント雖モ本第三紀層ノ凝灰岩ハ往々石英粗面岩質ナ
ルヲ見レハ本岩ハ恐クハ第三紀ノ始メヨリ其噴火ヲ逞フセシモノナ

ラン黒、黝、白等ノ色ヲ呈シ顯微鏡下ニ檢スルニ石基ハ微晶質 (Microfelsitic)
幽晶質 (Cryptocrystalline) 玻璃質等ニシテ玻璃質石基ハ往々眞珠結構ヲ現ハ
セリ石基中ニ散在スル斑理物 Porphyritic Constituents ハ石英、玻璃長石、及ヒ小
量ノ斜長石トス
南設樂郡海老驛ニ於テ第三紀層ヲ貫通シテ小露出ヲ爲セル黝灰色ノ
石英粗面岩ヲ分析シタルニ其結果左ノ如シ (總務局分析課)

SiO ₂	71.80
Al ₂ O ₃	14.77
Fe ₂ O ₃	痕跡
FeO	2.37
CaO	1.50
MgO	0.27
K ₂ O	2.57
Na ₂ O	5.36
H ₂ O	0.50
SO ₃	0.39
計	99.53
比重	2.63

粗面岩

三河南設樂郡副川ニ設樂第三紀層ヲ破リ現出ス褐黝色、黝色等ニシテ顯微鏡下幽品質石基中ニ玻璃長石ノ斑理物ヲ散布ス

輝石安山岩

三河北設樂郡ノ諸處ニ小域ヲナレ設樂第三紀層及花崗岩ヲ貫通ス其色ハ暗、暗綠、灰黝等ニシテ顯微鏡下ニ檢スルニ石基ハ稀ニ微硅質(Micro-silicatic)(北設樂郡小林)ナルアリト雖モ多クハ微品質ニシテ斜長石、輝石等ノ細粒ヨリナリ輝石、斜長石、磁鐵礦等ヲ其中ニ基布ス

玄武岩

三河北設樂郡上津具及ヒ上津具ヨリ信濃根羽ニ至ル信三國界ノ二處ニ現出スルノミトス黑色堅硬ニシテ顯微鏡下ニ檢スルニ黑微ノ石基中ニ斜長石、橄欖石、輝石、磁鐵礦等ヲ散布ス上津具ニテハ第三紀層下ヨリ露出セル領家岩ヲ貫通シ三信國界ニハ花崗岩ヲ迸發ス

第三章 應用地質論

石灰

石灰岩ニ二種アリ一ハ花崗岩中ニ現出スルモノニシテ信濃下伊那郡ニ産スルモノ是ナリ一ハ古生層中ニ成層スルモノニシテ本岩ノ露出地ニハ多ク石灰爐ノ設ケアルヲ常トスト雖モ一モ盛大ナルモノナク且其製造スル石灰ノ如キモ其販路所在近傍ノ村落ニ止ルモノトス今左ニ石灰岩ノ分析結果(總務局分析課)并ニ石灰製造額等ヲ掲ク

産地	炭酸石灰	炭酸苦土	酸礬化土及鐵	不溶殘滓
信濃下伊那郡千代村字サンノタル	九八、六九	〇、八〇	〇、五五	〇、一〇
尾張丹羽郡入鹿(今井村字池野)	九八、三八	〇、八八	〇、八七	痕跡
美濃加茂郡飯地	八五、八九	一〇、〇七	〇、五五	三、六五
全全南戸字下立	八七、四五	〇、八七	〇、六一	一一、三五
全全細目字鷺峯	九七、七五	一、三九	痕跡	一、一二
全全潮見字ナバエ	九五、九〇	一、二七	〇、五二	一、九〇

産地	一ヶ年製造額 (明治廿一年度)	壹貫目ノ價	雜記
信濃下伊那郡千代村(野池) (法全寺)	一一八八〇〇〇	〇、〇一七	片麻質の結晶中に在リテ品質極佳等ヲ呈シ白色及灰色等ナリ 野池川ニ注ク諸小流ノ水源ニ多ク野池法全寺ノ兩村ヲ 合シテ三十一畝アリ
美濃土岐郡笠原字深山	六四八〇	〇、〇二〇	土岐郡多治見村ノ南ニ坐シ風乾セテ古生層中ニ アリ多量ナラス陶磁器ノ軸藥ニモ使用スト云フ
全 可兒郡甘原	九六〇〇	〇、〇二七	土岐郡池田町屋ノ西南九 ノ半里同ク古生層ニ屬ス
全 全 日吉(川平) (霜向平)	六六三〇〇	〇、〇一五	古生層ニ屬シ木曾川 ノ南岸駿河ノ地ナリ
全 全 上ノ郷	三〇〇〇〇	〇、〇一四	古生層ニ屬シ可兒郡嶺ノ東 凡半里中仙道ヲ去ル甚近シ
全 加茂郡潮見	五一二〇〇〇	〇、〇一四	古生層ニ屬シ木曾川ノ北岸駿 ノ地ニシテ探石所二三ヶ所アリ
全 全 飯地	五三九〇〇〇	〇、〇一〇	古生層ニ屬シ木曾川ノ北岸駿 ノ地ニシテ探石所三四ヶ所アリ
全 全 南戸	三〇九〇〇〇	〇、〇一二	古生層ニ屬シ木曾川ノ北 岸ニ在リテ下立ト稱ス
全 全 細目	一三九〇〇	〇、〇二四	古生層ニ屬シ木曾川ノ北 岸ニシテ探石所ト稱ス
尾張丹羽郡入鹿(今井村) (字池野)	一三三七五七	〇、〇〇三	古生層ニ屬シ入鹿池ノ北東凡 ソ一里岩穴ト稱ス艶色ナリ

建築石材
花崗岩

建築石材トレテ必需ノ花崗岩ハ本國幅中最モ多キ岩種ナリト雖モ之ヲ切採スルノ地ハ獨リ三河東加茂郡ノ西南(足助川沿岸)及ヒ尾張東春日井郡中ノ數所ニ過キス是レ山間僻陬ノ地ニ在テハ運輸ノ費用ヲ償フ能ハサルニ由ル左表ニ花崗岩ノ切採地、産額及應用上有要ノ性質等ヲ舉グ

三河東加茂郡

村名	字名	明治十九年 産額	全上ノ額	明治廿一年 産額	全上ノ額	明治廿一年 格代	全工	始産ノ年月	位置
岩倉	東洞、西洞、西ノ浦、西ノ木	110,000	1,160,000	310,000	2,190,000	18,000	1,114,000	平敷ハ明治廿年	足助川ノ北岸
中村	月ヶ木	117	11,040	630	58,500	2,500	111,000	明治元年二月八日	足助川ノ南岸
全	太洞	—	—	—	—	—	—	明治廿一年二月廿日	全
中垣内	西ノ平	800	6,600	1100	15,500	—	218,200	明治十六年二月廿五日	全
全	岩谷	300	2,610	500	4,500	—	45,000	明治十六年十月十日	全
全	四ヶ湖	1100	10,500	1300	12,300	1180	109,700	明治十九年五月八日	全
九久平	藁場	1110	9,900	1050	11,050	6	118,400	明治十七年	全
全	百之	—	—	820	8,560	560	60,480	明治二十年	全

産地	比	重	一尺立方ノ重量	吸水量	付キ	百分ニ	一尺立方ノ吸水量
赤津	四〇〇〇	八錢	東春日井郡瀬戸ノ東一里半、名古屋ヲ去ル七里	位	置	八〇	明治廿一年七月二日
上水野	四五〇	一一錢	東春日井郡瀬戸ノ北一里餘	位	置	八〇	明治廿一年七月二日
村名	一ヶ年産額(明治廿年)	壹才ノ賣價		位	置	八〇	明治廿一年七月二日
本地ノ花崗岩モ黒雲母、角閃石ノ斑點ヲ雜ユ赤津村ニハ切採場數所アリ而シテ兩村共ニ運輸ノ便ニ乏シカラス						八〇	明治廿一年七月二日
本地方ノ花崗岩ハ大概一種ニ屬シ通例黒雲母及角閃石ノ黒斑點ヲ交ユル夥シク往々粗大ノ長石ヲ含有ス其販路ニ至テハ足助矢作兩川ノ便ヲ假リ頗ル遠キニ運送スルヲ得						八〇	明治廿一年七月二日
尾張東春日井郡						八〇	明治廿一年七月二日

全	丸根	全	菅沼	赤原	トイダ	計
一、一四〇	一、一四〇	二、六八〇	二、二五二	三、二八〇	二、七二五	二、七二五
九、五七六	九、五七六	二、二五二	二、二五二	三、二八〇	二、七二五	二、七二五
八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇
全	全	全	全	全	全	全

試驗表

東加茂郡九久平字菅沼	全郡中村字月ヶ本	全郡岩倉字西洞	全郡中垣内字四ツ瀬	東春日井郡赤津字北長谷	砂岩	第三紀層ノ砂岩ヲ切採スルモノハ美濃可兒郡中ノ數村アルニ過キス其産額モ亦微々タリ可兒郡役所ノ調査ニ依レハ其狀況ハ左ノ如シ
三、〇〇〇	二、六四二	二、七〇一	二、九三七	二、五一〇	明治廿一年切出高	一才ノ平均賣價
六九	六九	六九	六九	六九	九二四	三〇
〇、三五五	〇、二二〇	〇、〇八五	〇、二一〇	〇、〇七〇	位	置
六九	六九	六九	六九	六九	九二四	三〇
〇、〇七九	〇、〇四三	〇、〇一七	〇、〇四六	〇、〇一三	中仙道御嵩ノ西南一里餘	運送ノ便
〇、〇七九	〇、〇四三	〇、〇一七	〇、〇四六	〇、〇一三	中仙道御嵩ノ西南凡	惡カラス
〇、〇七九	〇、〇四三	〇、〇一七	〇、〇四六	〇、〇一三	計	一、〇〇七

村名	比	重	一尺立方ノ重量	吸水量(百分ニ)	一尺立方ノ吸水量
羽崎		二、四二六	一七、九九七	七、九一	一、四二三五

本地方ノ砂岩ハ悉ク一種ニ屬シ粗粒狀ニシテ硬密ノ性ヲ欠クヲ以テ著シキ堪久性ニ乏シト雖モ運輸ノ不便ナラサルト之ヲ切採スルノ容易ナルトノ利アリ

陶磁原料及陶磁製造業

陶磁製造ノ業ハ域内工業中最要ノ位置ヲ占ムルモノニシテ本業ニ從事スルモノハ三河ニ於テハ西加茂郡尾張ニ於テハ東春日井及愛知郡美濃ニ於テハ土岐、惠那、可兒等ノ諸郡ナリ其原料ヲ供給スルモノハ西加茂、土岐ノ兩郡ヲ最トシ此原料ヲ仰キ陶磁ノ製造ヲ營ムモノハ東春日井、土岐郡ヲ以テ最モ盛ナリトス東春日井郡瀬戸、土岐郡多治見ノ如キハ其名全國ニ冠タルハ人ノ能ク知ル所ナリ今左ニ本業ノ景況ヲ示サンカ爲メ各郡役所ノ調成ニ基キ一表ヲ設ク

陶磁製造統計表

地名	製造戸數	竈	數	職工數	一ヶ年收入金概算高
尾張東春日井郡瀬戸	二一八	三一八	一〇三九	一六四七〇、八九	
全 赤津	二五	三四	四一	四九〇〇、〇〇	
全 下品野	五一	八七	八〇	八四七七、七六	
全 上品野	一六	二四	四三	五八二五、七五	
小計	三一〇	四六三	一二〇三	一八三九一、四九	
美濃土岐郡高山	二六	三〇	八〇	二〇五〇八、六〇六	
全 大富	二	二	一三	四四〇、七一〇	
全 久尻	二七	六	五〇	一九九〇、七七三	
全 土岐口	一六	二四	五三	三四二九、四一八	
全 多治見	一四二	一七七	一〇六三	九二六七、二一六	
全 笠原	一二一	一四四	四〇八	三九八二〇、〇〇〇	
全 妻木	六一	七七	二八〇	二八七九〇、四九一	
全 下石	九四	八五	三六一	三〇〇五五、七〇二	

全	全	全	小	全	全	全	全	全	全	全	全	全
大川	吉長見	大泉	明知	富田	馬場山田	茄子川	可兒郡池田町屋	根本	三河西加茂郡白川	木瀬	小計	小計
二	八	七	三	一	三	八	一	九	一	五	〇	六
一〇	二	一〇	四	二	一	七	一	一三	五	一	一四	一六
一	五	六	一六	四	九	六	五	二	一七	二	一七	二
四一九、九〇〇	八一七、二六〇	一二六二、八五〇	一七六三、四六〇	三七九、〇〇〇	一〇二〇、〇〇〇	二七五〇、〇〇〇	四四二五二、六七〇	一二五〇、〇〇〇	一九一九、〇〇〇	三一六九、〇〇〇	三七〇、〇〇〇	二二五一、三五〇

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
肥田	歌知	柿野	曾木	定林寺	小里	釜戸	惠那郡下手向	原	釜屋	田代	猿爪	水上	小計
一〇	四五	一	三	一九	五	一	六	二	二	六	四九	二四	五七三
三	二四	二	六	二〇	七	二	三	二	二	三	五	五二	六〇九
五三	二〇六	〇	九	七九	一四	二	二六七一	一八	三	一二	四八	二一	二六七一
二八六九、〇八〇	一七三二〇、九二八	二五三、〇五〇	一四二七、七六二	一〇五五三、七〇〇	九一八、九六五	一二八、五〇〇	二五一、一七八、九〇一	二二八〇、〇〇〇	三一五、〇〇〇	一七六五、〇〇〇	二二六五七、〇〇〇	七八八八、二〇〇	二五二、一七八、九〇一

此表ニ依レハ陶磁器製造業一ヶ年ノ收入金ハ殆ント五拾萬圓ノ巨額ニ達ス亦以テ本業ノ此地方ニ重要ナルヲ知ルヘシ依テ是ヨリ其原料ニ就キ聊カ述ル所アラントス

陶磁ノ原土ニ二種アリ一ハ花崗岩ノ分解ヨリ成ルモノニシテ一ハ第三紀層ノ如キ水成層中ノ粘土トス

花崗岩

花崗岩ノ陶磁器原料トシテ須要ナルハ其一成分タル長石アルカ爲メナリ長石ハ漸々分解シテ遂ニ粘土ニ變遷スルモノニシテ美濃、三河、尾張等ノ花崗岩地ニ於テハ長石ノ分解ヨリ花崗岩ヲシテ全ク軟質土狀ニ變セシム應用上之ヲ蛙目ト稱シ陶磁ノ主要原料タリ之ヲ水車ニテ碎粉シ水ヲ用ヒテ數回淘汰シ陶磁ノ地ニ用ヒ亦道具土ニモ蛙目尙分解シテ其一分部ノ全ク粘土ト成ルモノアリ黝色、青灰色等ニシテ粘ノ稱アリ往々陶磁ノ鞘等ニ用ユ新鮮ナル長石モ亦碎粉淘汰シテ專ラ陶磁

ノ釉藥ニ用ヒ石粉ノ稱アリ花崗岩中ノ石英ハ「ギヤマン」ト稱シ全ク釉藥ノ一成分タルノ外亦硝子製造ニ用ユ

分析表 (分析課)

產地	品名	硅酸	礬土	第二鐵酸	石灰	苦土	加里	曹達	熱灼ノ量
美濃土岐郡下	蛙目碎粉シテ水ニテ淘汰シタルモノ	七三、九四	一三、四八	〇、八〇	〇、四八	〇、二四	五、四一	四、三八	一、六〇
三河郡木加茂	全碎粉セサルモノ	八〇、二八	九、四一	一、〇二	〇、一三	〇、二五	二、四一	四、一〇	二、六二
白全川	長石(石粉)	六三、七八	一八、八〇	一、七二	〇、三一	〇、一四	四、二六	一〇、八二	〇、三〇
北全一色全	全(全)	六四、三五	一八、二三	一、〇二	〇、一五	〇、一九	四、六〇	一一、〇九	〇、三七
全	全(全)碎粉シテ水ニテ淘汰シタルモノ	七六、一一	一一、一九	〇、六〇	〇、四八	〇、二七	四、三〇	六、一七	一、一二
三河郡西加茂	全(全)	六四、〇五	一八、九九	〇、四三	〇、五七	〇、二九	三、二八	一〇、二一	二、三六

粘土

尾張美濃ノ第三紀層中ニ成層スルモノニシテ就中重要ナルモノハ尾張瀬戸近傍ヨリ産スルモノニシテ方言水節ノ稱アリ多量ノ炭片ヲ含

有スルニ起因ス黝色ヲ呈シ著シキ粘着性ヲ有シ地質上礫ノ次ニ成層ス蛙目ト混和シ陶磁ニ使用ス瀬戸産ノ分析結果ハ左ノ如シ(分析課)

酸化鐵	46.76
酸土	33.50
第二酸化鐵	2.16
石灰土	0.84
里達水	0.61
曹	0.72
加	0.81
計	100.26

地名	明治十九年產額	全二十年產額	全廿一年產額
三河西加茂郡大畑	五〇〇,〇〇〇	一二〇〇,〇〇〇	一五〇〇,〇〇〇
八草	三九九〇五,〇〇〇	五三二〇七,二〇〇	六六五〇九,〇〇〇
篠原	三八二五〇,〇〇〇	五一〇〇,〇〇〇	六三七五〇,〇〇〇

地名	明治十九年產額	全二十年產額	全廿一年產額
西廣見	四四四九六,〇〇〇	五八五二八,〇〇〇	七三一六〇,〇〇〇
加納	一二〇〇,〇〇〇		
猿投	九五〇,〇〇〇		
飯野	二四三五二,〇〇〇	二五六九〇,〇〇〇	五五二五〇,〇〇〇
石飛	一五五一〇,〇〇〇	一八三〇〇,〇〇〇	二七三〇〇,〇〇〇
北一色	五三〇二七,〇〇〇	八一一五八,〇〇〇	一四四六九,〇〇〇
迫見	二八八〇〇,〇〇〇	三八五〇〇,〇〇〇	三五〇〇,〇〇〇
深見	三二〇〇,〇〇〇	三五〇〇,〇〇〇	四三〇〇,〇〇〇
白川	一九四二〇五,〇〇〇	一九八六〇〇,〇〇〇	二二二五五五,〇〇〇
西市野々	六一七七〇,〇〇〇	六三七〇五,〇〇〇	七三〇二〇,〇〇〇
石疊	三七二〇,〇〇〇	三五五五,〇〇〇	七八七五,〇〇〇
北曾木	一四八三五,〇〇〇	一六五一五,〇〇〇	一七〇五五,〇〇〇
折平	四三〇五〇,〇〇〇	四四五五〇,〇〇〇	五一六〇〇,〇〇〇
上渡合	四三九五〇,〇〇〇	四八五五五,〇〇〇	五四二二五,〇〇〇

木	瀬	五〇八五、〇〇〇	五二四一〇、〇〇〇	八三二三五、〇〇〇
三	ヶ	二二八六三〇、〇〇〇	二二二二五五、〇〇〇	二四七九二〇、〇〇〇
大	岩	三七八九〇、〇〇〇	三一九五〇、〇〇〇	四五〇一五、〇〇〇
寺	平	—	五〇九〇、〇〇〇	八一〇〇、〇〇〇
大	平	一八五五、〇〇〇	二三九〇、〇〇〇	四二四一、〇〇〇
小	計	九五〇二九五、〇〇〇	一〇一八六〇八、二〇〇	一二六九二〇〇、〇〇〇
此	金高	八七四六、四八〇	一〇八五九、二三五	一三七八四、二九二
美濃	土岐郡下石	一九九八五六、〇〇〇	三〇九七〇〇、〇〇〇	三九五一〇〇〇、〇〇〇
妻	木	一九六六二四、〇〇〇	二〇五六〇〇、〇〇〇	二二七九〇〇、〇〇〇
多	治見	五五〇四、〇〇〇	五九五四〇、〇〇〇	一一〇六五〇、〇〇〇
土	岐	一一二〇、〇〇〇	—	—
笠	原	六〇〇〇〇、〇〇〇	二五二二〇〇、〇〇〇	二五二二〇〇、〇〇〇
駄	知	六六五八〇、〇〇〇	一三六一八〇、〇〇〇	一八二〇四〇、〇〇〇
小	里	九二四〇、〇〇〇	九〇三一九、〇〇〇	二二八九〇〇、〇〇〇

萩	原	一〇六〇八、〇〇〇	二二四四二、〇〇〇	一五二一八二、〇〇〇
久	尻	六六〇〇〇、〇〇〇	一六一八五六、〇〇〇	二四七〇六八、〇〇〇
土	岐口	八五五〇〇、〇〇〇	一六二四〇〇、〇〇〇	六三〇〇〇〇、〇〇〇
淺	野	—	—	一四五七〇〇、〇〇〇
小	計	一二四一〇三二、〇〇〇	一三九九二三七、〇〇〇	二五五一七四〇、〇〇〇
此	金高	四九一二、六八四	二五四五、二七四	四五六一、五〇五
美濃	惠那郡久須見	—	—	一四〇〇、〇〇〇
上	手向	—	—	二九八、〇〇〇
原	代	—	—	一六八四一、〇〇〇
田	代	—	—	三六九、〇〇〇
水	上	—	—	一九五二〇、〇〇〇
大	川	—	—	四二五〇、〇〇〇
馬	場山田	—	—	八三五二、〇〇〇
蒔	子川	—	—	六六〇、〇〇〇

小計	此金高	尾張愛知郡山口	尾張東春日井郡赤津	下品野	上品野	小計	此金高	總計	總金高
五二六九〇、〇〇〇	一〇〇二二五、〇〇〇	一〇〇二二五、〇〇〇	二〇〇〇〇〇、〇〇〇	七〇二〇〇、〇〇〇	一九八〇〇、〇〇〇	二九〇〇〇〇、〇〇〇	四八八、二〇〇	四六四二四五〇、〇〇〇	二〇四五、六八一
一一〇四、六三四	一三〇九三、〇〇〇	一三〇九三、〇〇〇	二〇〇〇〇〇、〇〇〇	一六三五〇〇、〇〇〇	三一五〇〇、〇〇〇	三九五〇〇〇、〇〇〇	五九六五〇〇		
六七〇、〇〇〇	六七〇、〇〇〇	六七〇、〇〇〇	一三三六〇〇、〇〇〇	一四一、四五五	一四一、四五五	一八二二二〇、〇〇〇	一八二二二〇、〇〇〇		
二〇三、六五〇	一〇七、六〇〇	一〇七、六〇〇	二〇〇〇〇〇、〇〇〇	二〇〇〇〇〇、〇〇〇	二〇〇〇〇〇、〇〇〇	二〇〇〇〇〇、〇〇〇	二〇〇〇〇〇、〇〇〇		
一八二二二〇、〇〇〇	一〇〇三九五、〇〇〇	一〇〇三九五、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇		
一八二二二〇、〇〇〇	一〇〇三九五、〇〇〇	一〇〇三九五、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇		
一八二二二〇、〇〇〇	一〇〇三九五、〇〇〇	一〇〇三九五、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇		
一八二二二〇、〇〇〇	一〇〇三九五、〇〇〇	一〇〇三九五、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇		
一八二二二〇、〇〇〇	一〇〇三九五、〇〇〇	一〇〇三九五、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇		
一八二二二〇、〇〇〇	一〇〇三九五、〇〇〇	一〇〇三九五、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇	一六三三五〇〇、〇〇〇		

粘土産額(水節)

產地	明治十九年產出高	全二十年產出高	全廿一年產出高
尾張東春日井郡上水野	二一六〇〇〇	二五九二〇〇	三七九四〇〇
瀬戸	八三一七七五	八九一三四〇	九七九五〇〇
稻葉	—	三〇四七	一七六九三
今	—	—	一八二三三
下品野	二四〇〇〇	二二〇〇〇	二二五〇〇
計	一〇七一七七五	一一七五五八七	一四一六三二六
此代金	一七四八、五一	一八六八、七八	二一九八、三二

石英斑岩ノ分解ヨリ成リシ白土ヲ陶磁ニ應用スルコアリ美濃可兒郡御嵩字北山ニ古生層ヲ貫通セル石英斑岩アリ其區域極メテ小ナリ分解甚キヲ以テ白色土狀ヲ呈ス時々採掘シテ陶磁ノ製造ニ用ユト云フ可兒郡役所ノ調査ニ依レハ明治廿一年度ノ産額ハ三千八百貫ニシテ其收入金高ハ貳拾八圓五拾錢ナリトス

第三紀ノ凝灰質岩モ陶磁ノ粘藥ニ使用スルヲアリ地質上砂礫層中若クハ其下ニ薄層ヲ成ス白色粘土質ナリ產地ハ美濃可兒郡、尾張愛知、東春日井郡トス(白土章ヲ参照スヘシ)

磨砂

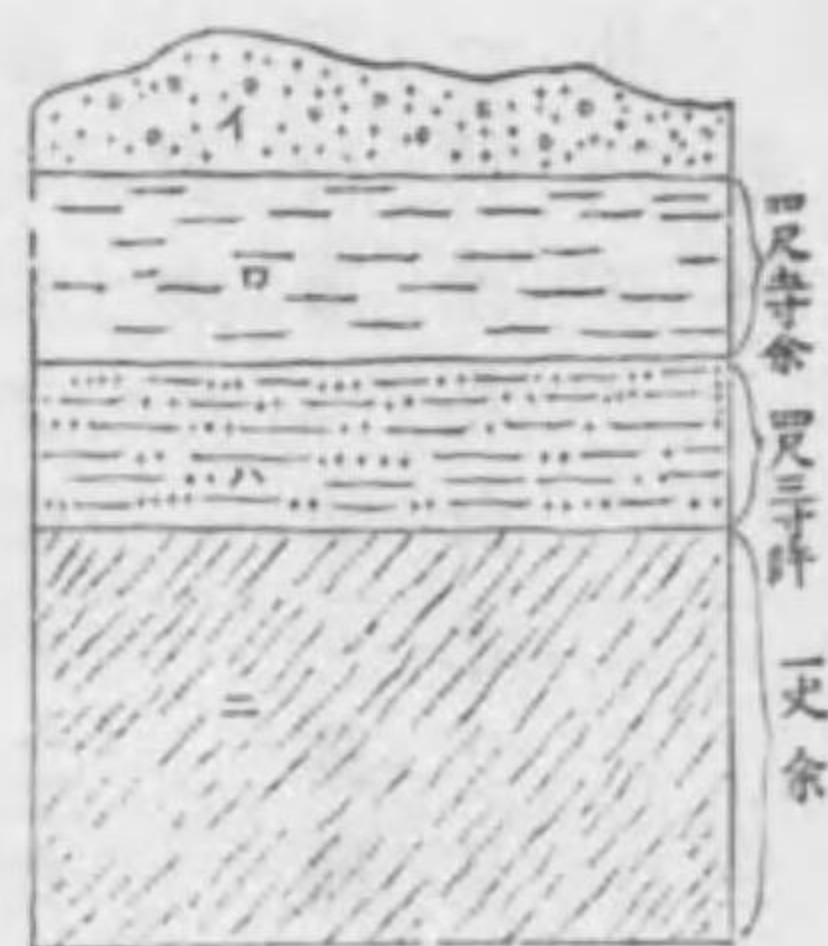
尾張愛知郡、東春日井郡、三河西加茂郡等ノ第三紀新層中ノ浮石層ヲ採掘スルモノニシテ其化學的成分ハ左ノ如シ(分析課)

硅酸	96.20
礬土	13.71
第二酸化鐵	1.20
石灰	0.62
加里	5.94
曹達	4.13
苦土	痕跡
灼熱ノ減量	5.30
計	100.10

以上ハ愛知郡春木村字白土産ノ磨砂ヲ分析シタル結果ナリ本層ノ地

質層位ハ通常砂礫及ヒ粘土(若クハ粘土質凝灰岩等)ノ次位ヲ占メ其厚サ一丈乃至一丈五六尺ニ達ス第六圖ハ白土坑内ノ斷面ヲ掲ケタルモノナリ

第六圖



- イ 砂礫層
- ロ 褐黴色粘土
- ハ 砂質粘土
- ニ 浮石層ニシテ往々燒木ノ片ヲ夾ム

産額 (愛知郡役所調査)

村名	全二十年産額	全廿一年産額
愛知郡春木	四三五五二〇	四八五二〇
全諸輪	三九二〇	四一〇四
		五二二七二〇
		一五四一二

全和合	三〇〇〇	五〇〇〇	六五九五二
計	四四二四四〇	四九四二二四	六〇四〇八四
價格	二二二二、二〇〇	二四七一、二〇〇	三〇二〇、四二二

西加茂郡西宮口、梅ヶ坪等へ産額ナク東春日井郡採掘地へ名古屋
圖幅ニ屬スルヲ以テ之ヲ省ケリ

白土

全シテ第三紀新層ニ屬シ砂礫層ノ下位ヲ占ムル粘土質凝灰岩ニシテ
純白、翹白或ハ稍薄桃白色ヲ呈シ極メテ微粒質ナリ洋帛ノ製造又陶磁
ノ釉藥ニモ使用ス

産額

村名	明治十九年産額	全二十年産額	全廿一年産額
尾張愛知	一七二八〇	一五四八〇	一二九六〇
郡春木			
全長久手	一六〇〇	三二〇〇	五六〇〇

全本地	二九五〇	一一六三二	一一九七二
計	二二八三〇	三〇三一二	三〇五三二
價格	一一〇、七〇	一八二、八四二	一六八、〇五二

全大針

此價格 五六〇〇
此價格 六六七二
此價格 二〇二〇

硝子原料

陶磁ニ應用スル長石ト共ニ花崗岩中ヨリ産出スル石英ハ硝子製造ニ
モ亦之ヲ適用スヘシ產地ハ美濃土岐郡妻木、笠原、三河西加茂郡猿投、加
納、大平、白川、北一色等ナリ之ヲ細粉シテ陶磁ノミニ使用スルモノアリ
或ハ大坂等ニ輸出シテ硝子製造ニ供スルモノアリ

分析結果 (分析課)

産地	硅酸	礬土	酸化鐵	石灰	苦土	加里	曹達	灼熱ノ減量
三河郡西加茂郡	九一、二七	二、七四	〇、五一	〇、一八	〇、二六	二、五〇	一、四二	一、三九
美濃郡木土岐	九六、六一	〇、二七	〇、四五	〇、一一	痕跡	二、〇八	痕跡	〇、三一

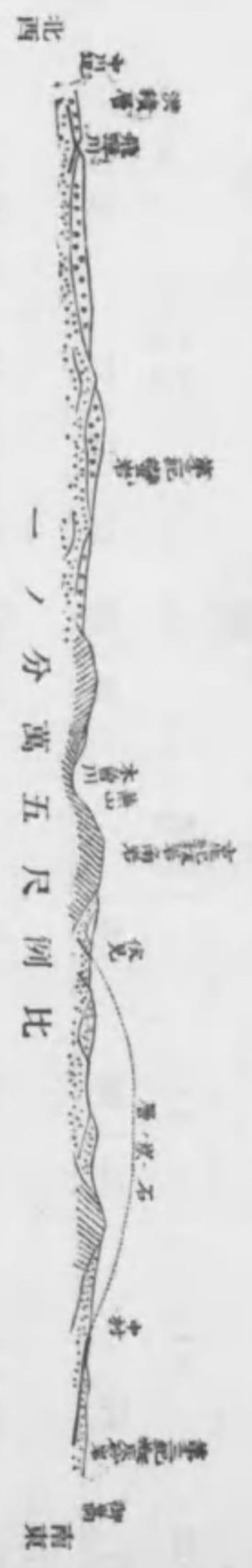
石炭

第三紀層中諸處ニ含有セララル、コアリト雖其質ノ不良ナルト其量ノ多カラサルトニ由リ大業ヲ起スニ足ルモノナシ
 信濃下伊那郡泰阜及ヒ北條(天龍川畔)等ニアル第三紀砂岩中ノ石炭ハ極テ薄層ニシテ之ヲ採掘スルノ見込ナシ
 三河設樂郡第三紀ノ凝灰岩中ニモ薄層ノ石炭ヲ挿入スルコアリテ南設樂郡海老村字河字連ニテハ曾テ之ヲ採掘セシコアリト雖モ其質不良且多量ナラサルト運輸ノ便利ナラサルトヲ以テ之ヲ採掘シテ到底益ナカルヘシ傾斜ハ四十度許ニシテ東南東ニ向フ其分析結果ハ左ノ如シ(總務局分析課)

水	骸	炭	揮發物	灰	硫	黃	合	計	比	重
	六、一二	三三、七五	七、七五	二一、八四	三九、二九	〇、二四	一〇〇、二四	一、六一	七	七

美濃可兒郡中村、比衣村、伏見村等ノ第三紀凝灰砂岩ハ石炭層ヲ挿入シ其厚サ四五尺ヲ有ス第七圖ハ本層ノ散布ヲ示シシカ爲メ加茂郡中川邊ヨリ可兒郡御嵩ニ至ル地質截斷面圖ヲ掲ケタルモノナリ

第七圖



現時之ヲ採掘スルモノハ唯中村ノ一所トス茲ニ本層ハ南西南ニ向ヒ十度以下ノ角度ヲ以テ傾斜シ其厚サハ五尺内外ナリ可兒郡役所ノ調査ニ依レハ其産額ハ左ノ如シ

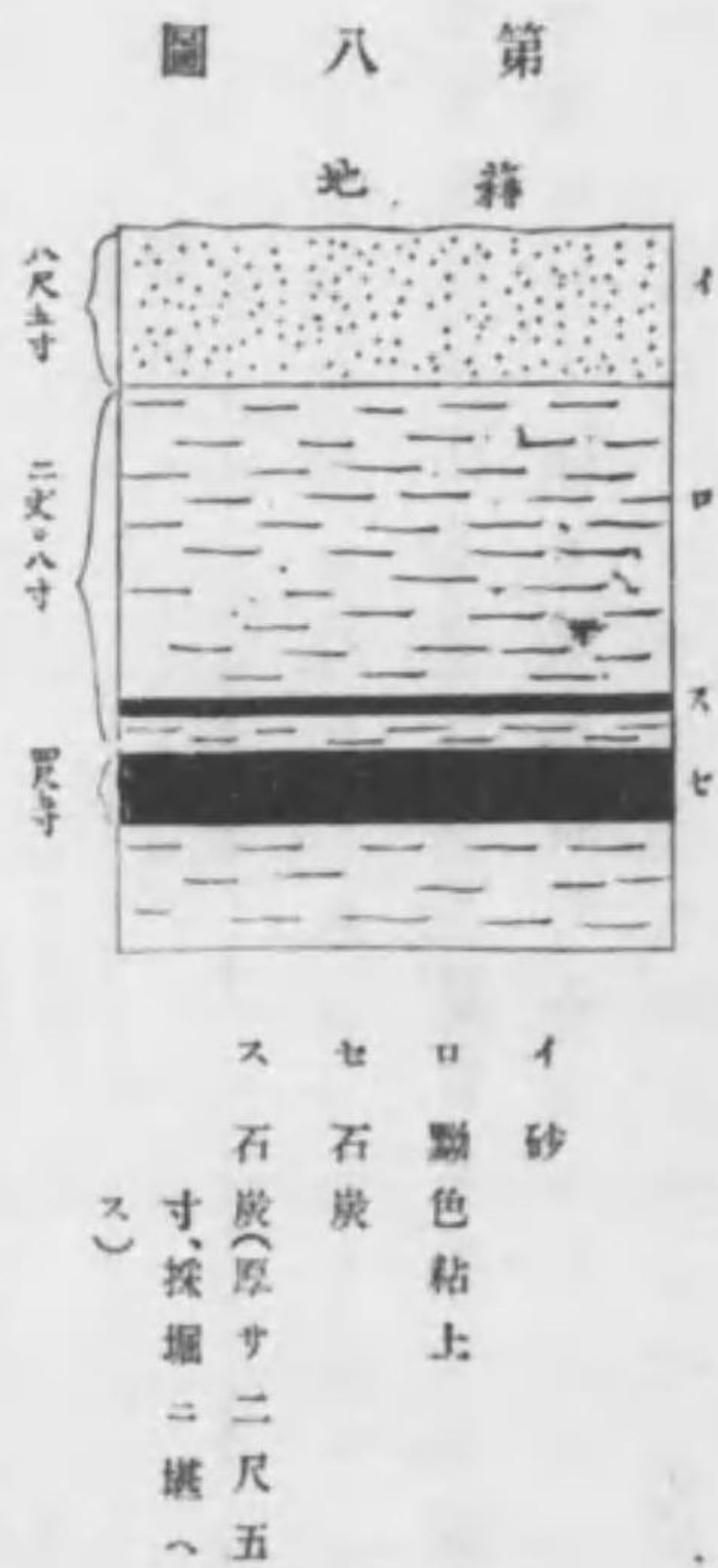
明治十九年産額	全二十年産額	全廿一年産額	平均賣價一圓ニ付
四三三八〇 <small>圓</small>	五七八九〇〇 <small>圓</small>	四〇五六一〇 <small>圓</small>	四〇〇 <small>圓</small>

又其分析結果ハ左ノ如シ(分析課)

水	骸	炭	揮發物	灰	硫	黃計	比	重
一五、三五	二二、一七	結ス	四〇、二〇	二二、二八	帶色綠	〇、一四	一〇〇、一四	一四、二五

品質不良ナリト雖モ木曾川ニ接近セルヲ以テ運輸ノ便アリ
尾張愛知郡、東春日井郡ノ第三紀新層中ノ石炭ハ方言岩イハキ木ノ稱アリ是
レ尙木理ヲ存スルニ起因スルモノニシテ品質劣等ナレモ其地勢平坦
便利ノ地位ヲ占メ之ヲ採掘スルニ容易ナルノ利アリ採掘ノ業ハ多ク
ハ冬間ノ農隙ヲ以テス田圃ヲ穿ツト大凡ツ二三丈ニシテ炭層ニ達シ
之ヲ掘リ盡セハ亦填メテ耕地ニ復ス第八圖ハ愛知郡長久手村字横道
ニ於ケル一坑内ノ断面圖ニシテ(イ)ナル砂層ノ上ニ白色粘土質凝灰岩

及ヒ砂礫層ノ之ヲ掩フコトアリ傾斜ハ何レノ地ニテモ極メテ緩慢ニシ
テ殆ント水平ナリ厚サハ四尺乃至五尺トス



長久手産ノ分析結果ハ左ノ如シ(分析課)

水	骸	炭	揮發物	灰	硫	黃計	比	重
一六、六二	二八、〇六	四五、七一	九、六一	帶色赤	〇、〇六	一〇〇、〇六	一、三七三	

又愛知、東春日井兩郡ノ産額ハ左ノ如シ

地	名	明治十九年産額	全	二十年産額	全	二十一年産額
愛知郡	長久手	五三一六八〇		一六四五〇五〇		一四一六二〇〇
全	岩作	二三六四〇				二一三九〇〇
全	岩崎			三二四〇〇		二〇二〇〇
小計		五五五三二〇		一六七七四五〇		一六五〇三〇〇
價格		八六七、六〇		二六八八、〇三		三一八一、七三八
東春日井郡	新居			二三七〇〇		二八三六七
價格				六六、三六		七九、四三

其他東春日井郡大草、野口、下原等ニ於テモ採掘スト雖モ名古屋圖幅ニ屬スルヲ以テ茲ニ載セス

砥石
域内ニ砥石材ノ產地三所アリ三河北設樂郡川合ニ於テ本村ヲ距ル北西二里餘川合、神田兩村界ノ官林字椎代ニ露出スル第三紀ノ凝灰岩ハ

南東ニ向ヒ三十度ノ傾斜ヲ呈セリ灰白色緻密質ニシテ往時此處ヨリ切掘セル砥材ハ名食砥亦三河白ノ稱アリト雖モ今ハ全ク廢業ニ屬シ只舊坑三處アルノミ亦同郡古戸ニアル第三紀ノ凝灰岩ハ白色粗質ニシテ鎌鋤ノ如キ農具ヲ砥クニ適スルノミニシテ時々切採シ自村ノ用ニ供スルニ過キス層向ハ北西ニシテ南二十度西ニ向ヒ二十七度ノ角度ヲ呈セリ美濃可兒郡上ノ鄉村宇綱木組ニ古生期ノ板岩アリ綠灰微密質ナリト雖モ容易ニ薄片ニ分離シ易ク當時之ヲ切採スルコトナシ

雲母
花崗岩中ニ産スルモノニシテ美濃(可兒郡津橋等)尾張等ニ於テ稀ニ採掘スルコトアリ其産額甚々微々タルニ過キス

産額

地	名	明治十九年産額	全	二十年産額	全	廿一年産額
尾張愛知郡	山口村			一〇五〇		一一五〇

石墨

三河東加茂郡和合、日明、南設樂郡田原等ノ領家片麻岩中ニ産ス其現ハ
 ル、ヤ層狀ヲ爲スニ非スレテ只片麻岩ノ一成分トシテ含有セラレモ
 ノトス蓋シ本邦石墨産出ノ狀ヲ考フルニ其母岩ハ常ニ片麻岩ニシテ
 雲母ニ代リ現出スルカ如シ和合村片麻岩ノ如キハ較多量ニ含有スル
 モノニシテ今同所ノ礦石富饒ナル部分ヲ取リ水ヲ用テ粗ク淘汰シタ
 ルニ礦石百分ニ付キ大凡ツ六拾六分ノ石墨ヲ得タリ

石英(水晶)柘榴石、黃玉石、青玉石、綠玉石

美濃惠那郡木曾川邊ノ沖積、洪積層又ハ花崗岩中ヨリ産ス蓋シ母岩ハ
 花崗岩ニシテ沖積、洪積層中ニ在ルモノハ、幾多ノ星霜間花崗岩ノ分解
 ヨリ此ニ沈積セシモノニシテ錫石ヲ蒐集スル際砂礫ヨリ洗滌シテ得
 ルヲ常トス産地ノ重モナルモノハ木曾圖幅ニ屬シ本圖幅中ノ産地ハ

惠那郡蛭川、駒場、川上等ノミナリト雖モ惠那郡中津川ヨリ土岐郡細久
 手ニ至ル中仙道近傍ノ洪積層ハ多少是等ノ寶玉ヲ埋藏スルヲ疑ナキ
 モノナラン

ゴス土(コバルト土 Asholite 陶磁彩色料)

美濃尾張ノ第三紀砂礫層中ニ往々散布スルモノニシテ礫礫ニ附着シ
 河流ニ出ツルモノヲ蒐收スルニ過キス尾張ニテハ瀬戸、美濃ニテハ笠
 原、妻木等ニ産ス瀬戸ニテハ往時ハ陶磁ノ彩色ニ用ヒタリト雖モ其産
 出高ハ極メテ少量ナルヲ以テ現今ハ多クハ外國品ヲ仰クト云フ此礫
 ハ素ト酸化「コバルト」酸化マンガシ等ノ混合ニシテ其成分一定セサル
 モノナリ左ニ瀬戸産二種ノ分析結果ヲ示ス(分析課)

	酸化マンガシ	酸化コバルト	酸鹽 化土 鐵及 石	灰 若	土 不溶殘滓
甲	一〇、九七	〇、七二	一三、七六	一、五六	〇、七八 六八、五〇
乙	五、一一	〇、九五	一、九二	痕跡	〇、四六 九〇、二四

砂鑄及ヒ褐鐵鑛(陶磁彩色料)

尾張瀬戸第三紀砂礫層中ヨリ砂鐵ヲ産ス方言「クロハマ」ト稱シ又同層中ノ薄キ褐鐵鑛層ハ「ヲニイタ」ノ稱アリテ共ニ陶磁ノ着色ニ用ユ

砂鐵分析結果 (分析課)

酸類ニ溶解セシ分

酸類ニ不溶殘滓

礬	土	第二酸化鐵	石	灰	苦	土	硫	酸	硫	酸	不溶殘滓	計
	二、五五	五、四〇		〇、六〇		〇、三三	痕	跡	九一、八〇	內酸化鐵 三六、一二		

鐵鑛

美濃加茂郡飯地村木曾川畔嶮崖ノ地ニ於テ古生紀灰岩下ニ磁鐵鑛層アリ厚サ二米突(六尺六寸)許リ方言吸鐵石ノ稱アリ層向ハ殆ント東西ニシテ南ニ急斜ス之ヲ採掘シテ果シテ利ヲ見ルヘキヤ否ヤノ點ニ至テハ尙詳查ヲ要スルモノトス其分析結果ハ左ノ如シ(分析課) 舊局員坂

第二酸化鐵	第一酸化鐵	礬	土	石	灰	苦	土	磷	酸	硫	酸	不溶殘滓	計
五四、六九	二二、九三	三、九〇		〇、八七		〇、四二		〇、一四	痕	跡	一六、六六		九九、六一

錫鑛

美濃惠那郡高山村近傍ノ第四紀礫層中ニ散在スルヲ洗滌シ得ルモノニシテ產地ノ過半ハ木曾圖幅ニ屬シ本圖幅ニ屬スルモノハ只蛭川ノ一村トス又近時土岐郡細久手村近傍(平岩)ノ洪積層ヲ洗滌採鑛スルノ計畫アリ蓋シ兩所ノ洪積期礫層ハ素ト花崗岩ノ分解ヨリ成リシモノニシテ且花崗岩中稀ニ錫鑛ヲ含有スルヲ以テ見レハ錫鑛ノ母岩ハ花崗岩タルヲ亦疑フヘカラス本層中ノ錫石ハ幾多ノ星霜ヲ經テ花崗岩ノ分解ヨリ玆ニ集積シタルモノナリ惠那郡役所ノ調査ニヨレハ蛭川村宇田原ノ三ヶ年間ノ産額ハ左ノ如シ

明治十九年採取高 一五六〇貫
 二十年採取高 二一一二〇貫

全 廿一年採取高 二三八九〇貫
 其分析結果ハ次ノ如シ (分析課)

錫	72.56
鐵	1.52
灰	0.68
土	0.26
滓	24.02
計	99.04

安質母尼鑛
 美濃土岐郡細久手村字田高戸ニ輝安質母尼鑛アリ地質ハ古生紀板岩ト花崗岩トノ接所ニ近ク板岩中ニ鑛脈ヲ爲シ其厚サ僅ニ數寸ニシテ厚キモ一尺ニ達セス層向ハ北々西ヨリ南々東ニ走リ傾斜甚々急ナリ嘗テ之ヲ開堀セシトアリト云フト雖モ鑛脈ノ薄小ナル傾斜ノ急ナル

等實益ヲ見ルヲ難カルヘシ

鉛鑛

信濃下伊那郡和田村字池口ノ輝鉛鑛ハ古生紀硬砂岩中ニアリ北方ニ向ヒ六十度ノ傾斜ヲナシ厚サ僅ニ二寸ニ足ラス美濃加茂郡飯地ニ於ケルモノハ石英斑岩中ノ鑛脈ニシテ其層向殆ント南北ナリ往昔開堀セシトアリト雖モ今ハ全ク廢坑ニ屬セリ蓋シ鑛脈不良ニシテ收支償ハサルニヨルモノナルヘシ

銅鑛

銅鑛モ數所ニ現出スト雖モ一ツモ屬望スキモノナレ遠江周知郡上平山緑泥片岩ニ黃硫銅鑛脈二三條アリ厚サ二尺乃至三尺黃硫鐵鑛ヲ夾雜ス層向北東傾斜急峻天龍河畔ノ險岸ニ位ス(豊饒ナル部分ハ鑛石百分中十六餘ノ銅ヲ含有ス)美濃加茂郡飯地水曾川ノ北岸ニ廢坑アリ曾テ銅ヲ産セント云フ地質ハ石英斑岩ト古生紀板岩ノ接處トス坑内水充チ探究ヲ遂クル能ハサルモ往時採堀セシ鑛石ヲ見ルニ閃亞鉛鑛中

ニ黃硫銅鑛ヲ散布スルモノナリ(分析結果ハ鑛石百分中銅四、六鉛一銀
 ○、〇一トス)

鑛泉

東 枝	日 面	飯 野	水 瀬	清 崎	夏 燒	牛 地	笹 戸	柳 野	泉 名
下 全	全	全	全	全	全	全	全	三 河	國 名
全	全	全	西 加 茂	全	北 設 樂	全	全	東 加 茂	郡
東 枝	日 面	飯 野	水 瀬	宮 清 ノ 崎 所 字	夏 燒	牛 地	笹 戸	柳 野	村
下 單 純 泉 冷	炭 酸 泉	單 純 泉 冷	摺 泉 質	全	炭 酸 泉	全 冷	全 温	單 純 泉 冷	泉 質
								華	温
五 〇	五 五	五 八	五 一	四 九	五 三	三 五	六 八	六 一	度
洪 積 層	全	全	花 崗 岩	第 三 紀 層	花 崗 岩	領 家 岩	全	花 崗 岩	地 質

河 原	論 田	湯 屋	曾 木	鹿 湯	釜 戸	小 澤	笹 音
全	全	全	全	全	全	全	美
全	加 茂	可 兒	全	全	土 岐	全	惠
伊 深	鹿 摺	次 月	曾 木	梯 野	釜 戸	飯 羽 間	毛 呂 窪
摺 質 泉	單 純 泉 温	全	摺 質 泉	全 冷	全 冷	單 純 泉 冷	炭 酸 泉
六 三	五 七	七 一	七 九	六 二	七 一	六 二	五 三
古 生 層	第 三 紀 層	花 崗 岩	領 家 岩	全	花 崗 岩	石 英 斑 岩	花 崗 岩

終